（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	小澤保博	所　属	教育学部国語科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00	近代文学専攻の学部、修士の学生に対する卒業論文、修士論文指導。沖縄一福建相互交流で一年間琉球大学に滞在、帰国した日本文学研究者に対して博士学位取得のための専門の樋口一葉の情報を継続して提供。他学部学生の小説創作活動の個別支援。	0.00	近代文学で修士論文執筆中の大学院生に六年がかりで論文指導、今年学位取得にこぎつけた。留年中の学生に履修指導、来年卒業させる見込みがついた。必修授業、選択科目で最新の研究成果を論文譲渡の方法で披露し、釧路在の学生に情報提供、中国人、英国人に専門の研究情報の提供をした。
研究	0.00	琉球大学教育学部紀要、言語文化論叢に論文掲載予定。文学関係雑誌に論文掲載予定。	0.00	琉球大学教育学部紀要、言語文化論叢に三本の論文を投稿、掲載した。
社会貢献	0.00	社会人の科目等履修生に対して教員免許取得に関する授業提供、情報提供。琉球大学図書館を介して論文公開、他大学教員の要請による論文送付。	0.00	琉球大学図書館を通して論文を公開、明治大学教員、関西在の高校教員の依頼により専門の芥川龍之介関係の論文を送付した。
管理運営	0.00	全学共通個別学力試験の問題作成委員長、採点委員長。学生生活委員、認定試験委員。	0.00	全学共通個別学力試験の問題作成委員長、採点委員長。学生生活委員、認定試験委員の職責を果たした。
進路指導	0.00	北海道教育大学派遣学生に対する情報提供。履修、就職指導。	0.00	学部、大学院の留年生に対して進路指導、就職指導。選択科目受講の他学科学生に対する東京、関西地区での就職情報提供。
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	萩野敦子	所　属	国語教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	①国語科関係の科目では「日本文学概論Ⅱ」「日本古典文学講読」等の古典文学関連科目のほか幾つかのオムニバス科目を担当し、それぞれシラバスに掲げた目標への到達をめざす。②教育学部事業として「コックさん学校」の世話役を務める。	0.30	①②ともに予定通りに行った。特に①においては、教科教育担当の教員と連携して開講した「国語概説Ⅱ」「国語概説Ⅲ」（国語教育専修所属学生用の専門科目）において、琉球新報社やFM沖縄の記者・アナウンサーをゲスト講師に招いたり、国立劇場おきなわへのバスツアーを企画するなど、多様な活動ができた。
研究	0.30	①平成24～27年度科学研究費助成研究「近世琉球和文学の考究および沖縄版『伝統的な言語文化』としての教材化」について、その第一歩を着実に進め、研究成果の公開をめざす。②所属している狭衣物語研究会において研究発表等をおこない、その成果を論文化する。	0.10	①については、科研の学術図書出版助成申請中の『沖縄から考える「伝統的な言語文化」の学び論』に論文「「伝統的な言語文化」と地域」を執筆したほか、平成25年２月刊行予定の『教師が学び生徒が活きる「国語科授業づくりの視点と実践』に4本の論考・実践例を執筆した。②研究発表を済ませ現在論文執筆中。
社会貢献	0.15	①21世紀おきなわ子ども教育フォーラムで行ってきた石垣市立大浜中学校の教員授業力向上支援を継続する。②教員免許状更新講習に講座を提供、夏休み期間に実施する。③アドバイザリースタッフとして、要望があれば授業現場等での助言などを行う。④琉球新報社「高校生読書体験記コンクール」審査員を務める。	0.20	①②④は予定通りに実施した。③については、平成24年10月に中城村との教育研究連携事業の一環として、中城中学校で行われた授業研究会の指導助言を行い、授業作りの段階から協力した。予定以外では、教育学部附属中学校の大学の授業体験講座でも授業を行った。すべてにおいて誠意をもって取り組んだ。
管理運営	0.15	①教育学部国語教育専修の教室主任および教育学研究科国語教育専修の専修主任として責務を全うする。②男女共同参画推進委員会の委員の責務を全うする。③前期入試科目「国語」問題の作成委員を務める。	0.35	①②③を予定通りに務めた。ほか、学部長からの要請を受けて教育学部の教育・研究企画委員会副委員長と将来計画委員会副委員長を務めた。いずれにおいても、できるかぎりの努力はした。
進路指導	0.10	①学部内の認定試験（教員採用模擬試験）の実施に協力するほか、小論文添削指導などを行う。②指導教員を務めている4年次生の卒業後の進路についてバックアップする。	0.05	①②ともに予定通りに行った。指導教員を務めている4年次生（平成21年度入学で4年間で順調に卒業予定の4名）が、二人の現役教員採用試験合格者を出し、指導の成果があがった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	辻　雄二	所　属	国語教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学年指導教員として適切な就学指導及び研究の支援を行う。	0.30	学年指導教員として適切な就学指導及び研究の支援を行うことができた。特に，専門に関しては教養的な書籍を貸出し，個々の学生の主体的な学ぶ姿勢の確立に努めた。
研究	0.50	①近代沖縄の学校教育成立時に注目し，地域社会が学校をどのように捉え位置づけていたかを明らかにすべく調査研究を進める。 ②小学校低学年での伝統的言語文化の指導にむけ，地域の昔話を調査研究し，その教材化を行う。	0.50	①近代沖縄の学校教育成立時に注目し，地域社会が学校をどのように捉え位置づけていたかを明らかにすべく調査研究を進めた。 ②小学校低学年での伝統的言語文化の指導にむけ，地域の昔話を調査研究し，その教材化を行い，現在科研費による出版助成金の応募をしている。 ③『教師が学び生徒が活きる国語科授業づくりの視点と実践（中・高校版）』の共同執筆を行った。 ④『現代民俗学会』5号に「論文批評」を執筆投稿した。 ⑤丸善出版社刊『民俗学事典』の「南島の島々」他を執筆した。
社会貢献	0.20	①石垣市立八島小学校での授業力向上研究会に参加し，授業づくりを通して教員養成に資する研究を進める。 ②大宜味村立大宜味小学校での読み聞かせ活動を通し，地域のボランティア活動の活性化に結びつける。	0.20	①石垣市立八島小学校での授業力向上研究会に参加し，特に視写教材の開発に努め，授業づくりを通して教員養成に資する研究を進めた。 ②大宜味村立大宜味小学校での読み聞かせ活動を通し，地域のボランティア活動の活性化を目指したが，調整に留まり実現できなかった。一方で学力向上に向けた小中連携授業研究会に参加し，指導助言を行った。 ③第29回中頭地区公立中学校校長会研究大会教育講演会講師及び平成24年度宜野座村学力向上推進実践報告会教育講演会講師を務めた。 ④中城中学校3年生のキャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の向上にむけて，総合的な学習の一つとして「琉球大学訪問体験学習」を指導した。
管理運営	0.00	なし	0.00	
進路指導	0.00	なし	0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	水上　雅晴	所　属	教育学部・国語教育専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	漢字に関する理解力が不十分と思われる学生が少なくないので、今年度は学生の漢字力の向上に重点を置いた指導を行う。授業の進め方が一方的にならないように工夫し、学生が主体性を発揮できる場面を増やす。	0.30	漢字に関わる授業を学内外で実施し、その重要性を改めて認識し、受講生にも同様に感じてもらえたと思う。今後さらに内容を充実して行きたい。授業における双方向性は従来より向上したと感じるが、学生に主体的な学習を行なわせる面でまだ課題が残る。
研究	0.30	国内全国学会もしくは国際学会での論文発表を最低一回実施する。学外の研究雑誌（レフェリー付き）に論文を掲載する。	0.30	国際学会で4回の研究発表を実施し、北京大学に客員研究員として招聘されて研究活動を実施した。北京大学国際漢学家研修基地発行の『国際漢学研究通訊』などに論文掲載が決まった。当初の想定より多くの成果を挙げることができた。
社会貢献	0.10	地域の教育活動・教育協議会等に参加し、教育学部に属する教員としての社会貢献を実施する。	0.10	客員研究員として海外へ行くことが急に決まって、参加を予定していた教育に関わる勉強会に参加できなくなるなど、この方面での活動は多いとは言えない。ただ、全国誌の論文審査を依頼され、当初予定していなかった方面の仕事は実施した。
管理運営	0.10	所属している委員会の業務に習熟し、与えられた課題や仕事をきちんとこなす。	0.10	所属している委員会に関わる責任は果たしたと考えるが、特筆するものはない。
進路指導	0.10	卒業可能な学生は確実に卒業できるようにサポートする。それに加えて、今年度は、共通教育で「キャリア概論」のコーディネーターを担当するので、学生の進路に関する意識の向上に務め、現実を見据えた選択をし、各自が定めた目標を達成できるように支援する。	0.20	卒論指導を担当している学生は全員卒業の見込み。共通教育の「キャリア概論」については、授業を実施していただく各専修・コースとの連絡を密にし、毎回変わる講師に気持ちよく授業をしていただき、受講した学生のキャリア意識の向上に役立てたと考える。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	大城貞俊	所属	学校教員養成課程・国語教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	1　担当講座の充実 2　卒業論文指導の充実 3　修士論文指導の充実 4　教育実習体験指導の充実	0.40	○「国語科教育法」講座においては、指導案の作成方法、模擬授業等を行う。卒論指導は2名を担当、無事終了。修士論文指導では3名の学生を担当、卒業の目処がついている。また国教育専修の学生を対象にした授業では、常に将来の教師像を追求させ、公立での教育実習生の研究授業にも積極的に参加した。
研究	0.20	1　国語科教育法の研究 2　伝統的な言語文化の授業研究 3　郷土文学の教材化の研究 4　研究論文の発表	0.20	○「全国大学国語教育学会第122回筑波大会」で、「地域教材が開く可能性」としたラウンドテーブルで、報告者として参加。また本テーマに加筆修正して、「グローバル社会における詩教材の可能性～山之口貘の詩から見えるもの」として「琉球大学研究紀要第81集」に発表した。
社会貢献	0.15	1　免許状更新講習講座の実施 2　学外での授業研究会への参加 3　学外での文化・教育的行事への協力支援	0.15	○「免許状更新講習」を8月14日に実施。学外の授業研究会は、西原小学校、津波小学校、泡瀬小学校の国語科研究授業会に参加。那覇市教育委員会からは「神原小中一貫教育モデル校連絡会」の委員を委嘱され、また「神原中学校評議委員」としての責任もまっとうした。
管理運営	0.15	1　附属中学校との共同研究委員としての任務遂行 2　教育実践総合センター地域連携事業部門委員としての任務遂行	0.15	○附属中学校との共同研究委員として、研究大会、公開授業等の指導助言に当たる。また、「体験琉球大学」で、中学1年生を対象に授業を行う。地域連携事業部門では、宮古島市との窓口になり、教育実践センターのアドバイザリースタッフ派遣事業の推進にあたった。
進路指導	0.10	1　2年次指導教員としての指導の充実 2　教員採用試験への対策指導	0.10	○2年次の指導教員として、単位取得指導、及び充実した学生生活が送れるよう、定例の2回の年次会を充実させた。また、本専修の学生同士の学びの場として教員採用試験対策講座の開講と実施を支援した。
	0.00		0.00	○本学編集発行の「やわらかい南の学と思想」第5巻編集委員長。○附属図書館主催「びぶりお文学賞」小説及び詩部門審査委員。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	中本　謙	所　属	教育学部国語教育専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	シラバスに従い講義を進め、内容の理解が深まるよう努める。また自らの研究成果を授業に反映させるよう努める。	0.00	基本的にはシラバスに従い講義を進めたが、講義によっては若干内容を変更したところがあった。補足プリントを作成し内容の理解が深まるように努めた。
研究	0.30	科研（B）「沖縄県宮古方言の言語地理学的研究」、科研（B）「琉球・沖縄文化の形成と外的衝撃―古代～中世並行期を中心に」を遂行するための調査研究をおこなう。方言文法研究会編『全国方言文法辞典』作成にむけて調査研究をおこなう。	0.00	研究分担者である科研（B）「琉球・沖縄文化の形成と外的衝撃―古代～中世並行期を中心に」を遂行するため、石垣方言の調査研究をおこなった。また、科研（B）「沖縄県宮古方言の言語地理学的研究」にも研究分担者として参加しており、その成果として7月の沖縄言語研究センター研究発表会で「言語地図からみる宮古方言の身体語彙」を発表した。方言文法研究会では、『全国方言文法辞典』を念頭に担当箇所である宮古方言の調査研究を行った。12月には、沖縄文化協会賞を受賞した。
社会貢献	0.15	市町村と連携して恩納村誌、読谷村誌、南城市奥武島誌の言語編の仕事に携わる。	0.00	恩納村、読谷村等の市町村誌『言語編』作成のため、編集委員、調査委員に委嘱され、その責任を果たしている。本年度は作成に向け、言語調査を行い、編集会議では主に執筆項目の検討を行った。 その他にも文化庁の依頼による「危機的な状況にある言語・方言の保存・継承に係る取組等の実態に関する調査」に参加し、調査報告書を作成した。
管理運営	0.25	入試委員（国語教育専修）、入学試験世話人	0.00	国語教育専修の入試委員、入試世話人としてその責務を果たした。
進路指導	0.05	担当学生の進路を把握し、助言できるように努める。	0.00	担当学生の進路希望を把握し、必要な情報をなるべく多く提供するよう努めた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	里井　洋一	所　属	（学部・研究科等）	教育学部社会科教育講座	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	35.00	教育法授業において、実践的な方法の中に、具体的な実例を含めることによって更なる改善をする。また、社会科学生に対して、開墾から田植え、稲刈り、脱穀までを体験する授業を行い、その体験から人類史における生産について考える試みを行う。	30.00	本年度の教育法授業においては、具体的な事例の中から問題点を学生が選び出し検討することと、研究の知見をあわせるこで一定の効果をあげることができた。また、田んぼにおける体験は、開墾した土地における排水の問題、二度の台風に見舞われた問題などによって、人類史的体を味わうことができた。
研究	40.00	歴史学研究の方法を生かした歴史教育教材を生み出す。	40.00	昨年度刊行した北中城村史文献資料編の成果に基づき護佐丸教材を作成した。特に近世における護佐丸伝承を中城という地域に視点を置くことに重点をかけた。この教材は中城中学の生徒が「体験琉球大学」に来たときに実践を行った。また、2013年度から使用される小学校社会科副読本にも、船教材を作成した。
社会貢献	15.00	離島・地域との協同研究をさらに広げていく	20.00	宮里中学校との間で昨年度からの学校評価委員を勤めるとともに、社会科教科会との月例提起研究会を年間通して行った。また、昨年度につづいて竹富町船浦中学校と協同研究を進めた。宮古島においては、宮古島教材の内容協同研究と、こどもが相互交流する「旅」という手法の継続研究を行った。
管理運営	7.00	教育実践総合センター地域貢献部門、八重山担当として、定期協議会を軌道にのせる	7.00	石垣市教育委員会との定期協議を二度行うことができ、大浜中・八島小におけるモデル研究が一定に成果をあげたことを共通確認することができた。また、竹富町教育委員会とは二度の定期協議を行い、長年の懸案であったCD小学校社会科副読本の活字化を行うことができ、4月には現場で使用する予定である。
進路指導	3.00	教育実践演習準備をとおして教師に必要なことを学生と考えたい	3.00	将来、社会科教員として必要な資質をどのように演習科目としてのカリキュラムをつくればいいのかという相談を学生と一緒に研究し、一定のカリキュラムを作成することができた。
	0.00		0.00	
計	100.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	100.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	高良倉成	所　属	教育学部学校教育教員養成課程	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.50	1）社会科教育専修と沖縄島嶼教育コースの専門科目を開講する。 2）すべての学部学生を対象にした科目（社会科要説）を開講する。 3）卒論学生3名の指導を行う。	0.00	「経済学概論」,「国際経済論」,「経済学特講」（以上社会科教育専修）,「経済時事問題演習」,「島嶼社会演習」,「島嶼社会調査」（以上沖縄島嶼教育コース）,「社会科要説」を予定通り開講し，卒論ゼミ生の個別指導も行った。
研究	0.40	1885（明治18）－1934（昭和9）年までに全1762号発行された雑誌『教育時論』を対象に,「社会」用語法の検証をする。	0.00	語彙抽出のための手書きノートは現時点（2/1）で1167号まで済ませたが，全1762号の手書きノート作成を今年度中に終えるという当初目標は達成できないかもしれない。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.10	教室主任および専修主任として教室や講座をとりまとめ，また教員養成運営委員会（全学委員会）委員として職責を果たす。	0.00	主任としての職責はほぼ果たした。教員養成運営委員会内に設置された「教職課程企画調整ワーキンググループ」ではそのWG長として，教職実践演習のガイドライン策定に努めた。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00		0.00	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	田中　洋	所　属	教育学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.45	学生の理解に資するよう、資料を活用した講義を行う。特に、共通教育科目である「憲法概論」については、1年生が多いことに配慮して、わかりやすい説明を心がける。 また、専門科目については、少人数科目が多いことから、学生の反応に応じて柔軟な授業展開を心がける。	0.50	共通教育科目の「憲法概論」では、1年生が過半数を占めることから、丁寧な説明を心がけるとともに、新聞記事を中心とする資料を活用した授業を行った。 専門科目についても、「憲法概論」と同様に、資料を活用した授業を行い、学生の理解促進を図った。
研究	0.30	学校教育の現場に資する研究を心がけ、その成果を学会誌等へ投稿する。	0.25	学校現場で生じた裁判例を分析した論考を発表した。
社会貢献	0.05	教員免許更新講習の講師として、わかりやすく、現場の先生方にとって役に立つ講義を心がける。	0.05	教員免許更新講習で必修領域の一部を担当し、できるかぎり具体的で実践的な内容となるように講義を行った。
管理運営	0.10	教育実習委員として、実習等が円滑に実施されるように配慮する。また、教員免許状更新講習実施委員会委員として、責務を全うする。	0.10	教育実習委員として、実習等の円滑な実施に資するよう、連絡・調整等を行った。また、教育免許状更新講習実施委員会委員として、責任をもって委員会に参加した。
進路指導	0.10	4年次指導教員として、教員採用試験をはじめとする進路について、学生との連絡を密にして、希望進路実現への援助を行う。	0.10	4年次指導教員として、学生が就職活動（特に教員採用試験）に積極的に取り組むよう、情報提供等を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	前村佳幸	所　属	学校教育教員養成課程　社会科教育専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	小学校9教科の社会科と生活科の関連科目を担当。体験学習や学外活動を取り込み内容の充実をはかる。専門科目では史料の紹介に努める。	0.20	構想していた内容を概ね展開させることができた。
研究	0.30	中国史分野で論考をまとめる。沖縄研究では、『球陽』に関する論文を提出し、王朝末期の琉球の礼制について尚家文書に取り組む。	0.30	教育学部紀要第81、第82集に論文を掲載した。審査中の論文１件あり。礼制に関する研究の目途がついた。
社会貢献	0.20	紙漉きと養蚕・絹織物をテーマとして、地域の人々との連携を深める。	0.20	21世紀おきなわ子ども教育フォーラムに継続して、紙漉きの実践・教材化を推進する共同の研究・教育活動に参加し、その共同の成果を教育実践総合センター紀要論文にまとめた。
管理運営	0.15	はじめて担当の学生生活委員会（社会科講座代表）にて実務にあたる。	0.15	前任者の転職につき引き継ぎがなされていなかった認定試験について急遽準備し講座の責務を果たした。委員会の実務は部会で担当した。
進路指導	0.15	１年次指導教員として、履修・学生生活指導を行う。	0.15	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	松本　修一	所　属	教育学部　数学教室	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	共通教育と専門教育に関する講義の他に、大学院生３名の指導を通して責務を果たす	0.30	共通の『数理の構造』については、特に質問に答える事に力を入れた結果、学生の知識欲をある程度満足させ得た。専門の『解析学序論』については、高度な数学を目指す私の意図が空回りしたと認めざるを得ない。院生については、２名に関しては思い通りの効果を上げたが、残りの１名に関しては、１年が経過したにも関わらず、堅実な方向性を与えきれていない
研究	0.30	Larmor 時計と固有時に関する研究で、何らかの本質的な貢献をしたい	0.20	2編の論文を Physics Letters A に掲載する事ができた。固有時を測定する為の測定過程として Larmor 時計を考えることが出来るという、新しい見地を確立することが出来たと言う点で、ある程度満足している。これまでの結果をもう少し一般的な状況で考察し直した上で、重力場の下での固有時に関する議論に進むつもりである
社会貢献	0.30	誰でもが自由に Web 上で利用できる算数及び数学の自学自習支援システムの構築を半ば完成させる	0.40	教材の基礎におくべき理念を固め、相当な時間をかけた結果、一部を書き上げる事が出来た。この点は評価できる。ただ、大学生、高校生、中学生、それぞれの役に立つものを書くと言う最終目標までには膨大な時間が必要である事が、今になって見えてきた。この点は見通しが甘かったと言わざるを得ない
管理運営	0.05	教育実習委員の責務を果たす	0.05	十二分とは言わないまでも、私に出来ることは全てしてきたと考えている
進路指導	0.05	一年次指導教官の仕事を通して、学生の進路指導に当たりたい	0.05	受験生としての低い意識を、教師としての高い理念へ切り替えさせることを目標にしている。活躍している卒業生を招いて一緒に食事をし話を聞かせたり、数学の文化としての発展の跡を辿ったり、良い本を買い与えたりして、気付いてくれることをじっと待っているが、数学を教える意味までをも考えようとする学生は、なかなか出現しない。笛吹けど踊らず、と言う状況である
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）							
名　前		加藤満生	所　属	教育学部・数学専修		職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果		
教育	0.25	共通教育，専門教育，大学院教育において学生の理解度に合わせた講義演習を行う.		0.25	共通教育，専門教育，大学院教育において学生の理解度に合わせた講義演習を行った.		
研究	0.25	複素鏡映群をモノドロミー群にもつ微分方程式の研究を行う.		0.25	複素鏡映群をモノドロミー群にもつ微分方程式に関する論文をkyushu Journal of Math.（査読有）から1編出版した.		
社会貢献	0.25	平成22年度免許状更新講習を担当し，公立学校の教員との交流を密にする.		0.25	平成22年度免許状更新講習を担当し，公立学校の教員との交流を密にした.		
管理運営	0.25	数学専修の主任として管理運営に携わる.		0.25	数学専修の主任として管理運営に携わった.		
進路指導	0.00			0.00			
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。		

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	徳重典英	所　属	教育学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	「微分積分学I」「微分積分学II」「数の文化」「数学講読」「代数学I」「代数学II」「幾何学II」「離散数学特論」「卒業研究」の授業、指導を行う。	0.40	左記の科目の授業、指導を行った。代数学と幾何学の授業では毎回、小テストを行ってその結果を採点して返却した。
研究	0.25	科研費基盤研究「配置の幾何とハイパーグラフの極値組合せ論」の研究代表者としての活動を行う。	0.25	左記の研究代表者としての活動を行った。4本の論文が出版され、2本の論文を査読者の意見を入れて修正し再投稿した。韓国で行われた研究集会において招待講演を行った。
社会貢献	0.05	応用数学合同研究集会の運営を手伝う。学術論文の査読を行う。	0.05	左記の研究集会の運営を行った。8件の学術論文査読、レビューを行った。
管理運営	0.25	入試委員として、関連の業務を行う。情報処理センター専門委員会委員として関連の業務を行う。守秘義務のある委員として、関連の業務を行う。	0.25	左記の委員としての業務を行った。最も時間をかけた業務は守秘義務があるため、内容については述べられない。
進路指導	0.05	4年次指導教員として、年次別懇談会等において進路指導を行う。	0.05	4年次指導教員として年次別懇談会等で進路指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）							
名　前		湯澤　秀文	所　属	教育学部数学教育教室		職　名	講師
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果		
教育	0.45	講義に関する学生の質問や感想を随時取り入れ、これを授業改善を通してフィードバックして行く。また，近年の研究結果や情報も講義に取り入れ、講義の質の向上に努める。		0.45	ほぼ毎回の講義において，学生からの質問や感想を主に記述を通して聞くことができ，結果をそれ以降の講義の改善に役立てることができた。また，近年の研究の動向等も講義に取り入れた。その結果，これらに関する学生の記述は，概ね講義の趣旨に沿う好意的なものが多かった。		
研究	0.40	研究テーマに関する資料や情報を収集し，考察を深める。		0.40	研究テーマに関する資料や情報を収集し，実践や考察を深めることができた。		
社会貢献	0.05	学会や附属学校の研究大会等における指導・助言等の要請に可能な限り応え、大会の運営に協力する。		0.05	附属学校における研究大会や校内研修，教育実習等での指導・助言のほか，公立学校や学会の研究会等における指導・助言，講座，分科会座長なども務めた。		
管理運営	0.05	所属委員会の活動に取り組む。		0.05	所属委員会より依頼された業務に関しては責務を果たすことができた。		
進路指導	0.05	所属ゼミの学生の進路相談や修学相談を随時行う。		0.05	採用試験の指導や進路相談を随時行った。		
	0.00			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。		

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	松田伸也	所　属	教育学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00	前期：理科教育法、自然科学概論、自然環境科学教育演習ⅡA、理科教育実践研究A1、理科教育実践研究B1の講義を単独で行い、理科教育研究の1/3を2クラス分担して行う。後期：理科教育法C、理科教育実践研究A2、理科教育実践研究B2の講義を単独で行い、入門地学2/5を1クラス、理科教育研究の1/3を2クラス分担して行う。1名の卒業研究を指導する。	0.40	前期：理科教育法A、自然科学概論、自然環境科学教育演習ⅡA、理科教育実践研究A1、理科教育実践研究B1の講義を単独で行い、理科教育研究の1/3を2クラス分担して行った。後期：理科教育法C、理科教育実践研究A2、理科教育実践研究B2の講義を単独で行い、入門地学2/5を1クラス、理科教育研究の1/3を2クラス分担して行った。1名の卒業研究を指導した。
研究	0.00	2008年度～2011年度基盤研究（B）「沖縄の亜熱帯環境を生かした自然科学教育の実践的研究」（課題番号：2030261）の研究成果報告書をまとめ、提出する。理科教育学会全国大会で筆頭著者として1件の発表を行う。琉球大学教育学部紀要に投稿すべく、執筆を進める。	0.40	2008年度～2011年度基盤研究（B）「沖縄の亜熱帯環境を生かした自然科学教育の実践的研究」（課題番号：2030261）の研究成果報告書をまとめ、提出した。理科教育学会全国大会で筆頭著者(1/5)として1件,共著（6/7）1件の発表を行った。琉球大学教育学部紀要に共著（3/3）論文を1編発表した。
社会貢献	0.00	日本理科教育学会九州支部評議員	0.01	日本理科教育学会九州支部評議員を務めた
管理運営	0.00	教育学部附属教育実践総合センター運営委員、教育学部学生生活委員、	0.09	教育学部附属教育実践総合センター運営委員、教育学部学生生活委員を務めた。
進路指導	0.00	学部認定試験「理科」の作成ととりまとめをする。沖縄県教員候補者選考試験対策セミナープログラム「一般教養理科」講師を務める。卒業研究の4年制1名の進路を本人と議論する。	0.10	学部認定試験「理科」の作成ととりまとめをした。沖縄県教員候補者選考試験対策セミナープログラム「一般教養理科」講師を務めた。卒業研究の4年制1名の進路を本人と議論し県内企業の内定を得た。
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	杉尾幸司	所　属	教育学部・理科教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目や大学院担当科目等の授業内容について検討し、改善を実施する。	0.30	学部担当科目および大学院担当科目ともに、前年度の学生による評価結果等を参考に授業の構成、板書内容等について改善を行った。
研究	0.30	新たな研究を進めるとともに、これまでの研究内容についてまとめ、学会での発表や研究論文等の投稿に努める。また、外部資金等の獲得を積極的に行う。	0.30	外部資金獲得に関しては、「海を活かした教育に関する実践研究」、「科学研究費補助金」等の研究助成事業に参加した。これらの研究成果は、国内学会において発表するとともに論文投稿を行い、国際学術誌及び学部紀要に掲載された。
社会貢献	0.10	附属学校等での研究授業および授業討論会等に参加し、助言を行う。また、科学作品展等など対外的な協力についても、要請があれば積極的に貢献する。	0.10	附属小学校および中学校で行われた研究授業に参加して、指導助言等を行った。また、沖縄県教育委員会が実施した理科教員指導力向上のための悉皆研修「中学校理科教諭授業改善研修会」において講師を担当した。
管理運営	0.25	学内の各種委員会活動についての責任を果たす。また、3年次指導教員として学生への適切な指導助言を行う。	0.25	図書紀要委員会に所属し委員としての責務を果たした。また、3年次指導教員として、履修カルテの実施について取り組むとともに、年次別懇談会等を通して学生への指導に努めた。
進路指導	0.05	年次指導として担当している3年次を中心に、進路に関しての適切な指導助言を行う。	0.05	年次指導として担当している3年次については、年次別懇談会等を通して認定試験や教員採用試験に向けての情報提供を行い、教職に関して自覚を促す取り組みを行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	岩切　宏友	所　属	教育学部・理科教育専修	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.50	○物理学実験の講義を通して、基礎的な物理の実験手法の確立や、コンピュータの活用方法、論理的な文章の書き方などを指導する。 ○卒研指導により、自発的研究能力や科学的思考能力の育成を行う。 ○教育学部における物理教育法を高度化し、その手法を確立して講義に生かす。	0.49	演示よう教材や学生実験用教材の改良を行うことで，講義内容の質的な向上があり，学生の理解度も深まったように思える。講義の内容は本年度履修学生に応じて昨年度から40%程度変化させた。また3人の学生に対して卒業研究の指導を行い，プレゼンテーション技術や文章作成，科学的思考力の育成に成果があった。
研究	0.35	○光学特性変化を中心とした量子ビーム照射効果についての諸研究を進展させる。 ○物理教育についての新規研究に着手し，起点となる成果を得る。 ○計算材料科学についての研究成果を学術論文として発表する。	0.35	粒子線照射効果に関連する研究についてはとくに計算機シミュレーションによる電子状態計算についてかなりの進展があった。また，本年度より本格的に開始した科学教育については，力学概念や海洋教育に関連した分野でかなりの進展を見せた。このように，いくつかの分野で一定の成果が得られたため，それぞれの分野で学術論文としての発表を予定している。
社会貢献	0.10	○ITER-BA(国際熱核融合実験計画を補完・支援する先進的核融合研究開発事業）の遂行を他大学（島根大学，北海道大学など）の研究者と連携して行う。 ○共同研究を行っている京都大学大学院の数名の大学院生に対する研究指導の補助を行う。	0.10	ITER-BAについては3つのタスクに分担者として加わり，一定の役割を果たした。また，京都大学の博士後期課程の学生に対して第一原理電子状態計算についての研究指導を行い，当該学生は平成24年度の日本保全学会の「学生セッション」で奨励賞をいただいた。
管理運営	0.05	○理科教育専修担当教員および，共同研究推進委員としての業務を円滑に行う。	0.05	理科教育専修・理科教育講座・（旧）自然環境教育コースの業務を（それなりに）円滑に行うことができた。また，機器分析支援センター運営委員会委員及びRI施設放射線安全委員会委員としての仕事も行った。
進路指導	0.00	○教育学部理科教育専修1年次の学生に対し、将来の進路に関する相談、助言などを行う。（それほど時間を要する業務ではないため，業務ウェイトは0.00にしてある）	0.01	研究室に所属している3名の教員志望の学生に対して，教員採用試験対策の勉強会及び，２次試験における小論文作成についての指導を行った。また，１年生に対しては，質問にきた学生に対して適宜対応した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	泉　恵徳	所　属	教育学部音楽教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	去年の「音楽」の授業評価で、ピアノの練習を20分させたら、授業評価に「とても耐えられない」と書いた学生がいたので、音楽修行は、何時間も反復練習するのだと言うことをしっかり理解させたい。「教師の為の発声法」では、これまでの内容に加えて、スピーチ術や言葉の使い方(修辞法)も取り上げて、教師としての基本技能を高めさせたい。	0.30	音楽修行や練習は、長時間の反復練習が大事だという事をしっかり理解させて授業を行ない、又、リコーダーの特殊奏法(巻き舌奏法や吹きながら歌う奏法)も導入した。「教師の為の発声法」では、特に話術と言葉の修辞法に力を入れて指導したので、15週の短期間でそれらが格段に上達し、皆が「え一っと」等を言わずにスラスラと言いたい事を話せるようになった。
研究	0.30	「琉球音楽・工々四」の歌いだしのリズム(アインザッツ)の研究と、宮良長包の歌曲に於ける解釈と演奏法についての論文を書いて、教育学部紀要に投稿したい。又、演奏活動としては、バロック時代(1600～1750)の演奏様式と時代様式に則ったコンサート「バロック音楽の夕べ」を開催したい。	0.30	「琉球音楽・工々四」の研究を教育学部紀要81集に、又、「宮良長包研究」を同紀要82集に投稿した。演奏発表としては、バロック時代の演奏様式(装飾様式)を研究し、それを「バロック音楽の夕べ」と題したコンサートに結実させた。又、11月には、東京の古賀記念ホールで演奏会を開催し、オペラと琉球民謡とを演奏した
社会貢献	0.20	公立中学校の「校内合唱コンクール」の審査委員長や、教材の模範演奏を、何校か廻ってヴォランティアで行ないたい。又、19年間継続してきた「宜野湾ロータリー・クラブ」に於ける社会奉仕活動や国際奉仕活動に尽力したい。更に、一般合唱団の指導にも力を傾注したい。	0.20	公立中学校には、都合が付かずに行けなかったが、附属小学校での「訪問演奏会」を企画、監督し、小学校教材から6曲演奏した。又、同小学校教諭を対象とした「指揮法講習会」で指揮の指導を務めた。10月には、上大謝名公民館建設資金造成チャリティー・コンサートで2時間の演奏を行なった。又、「あやはし歌声サークル」を創設し、指揮者として同合唱団を指導した。
管理運営	0.10	全学のエコロジカル・キャンパス推進委員として、又、学部の共同研究推進委員として、職責を果たしたい。それから、3年次の指導教員として、教育実習などを支援していきたい。	0.10	全学エコロジカル・キャンパス推進委員として、又、学部共同研究推進委員として活動した。又、3年次の指導教員として、月1回の夕食会をもって、学生の意見や事情を細かく聴取する様に努めた。
進路指導	0.10	進路や教員採用試験について、インセンティヴを高めるよう指導する。	0.10	教員採用試験について、できるだけインセンティヴを高めるように、色々な情報を説明し、合格する意識を鼓舞した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	永 山 哲 男	所　属	教育学部　音楽教育専修	職　名	教 授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	音楽の教職に必要なピアノの指導という観点で、40年間、学生を指導してきた。クラシック音楽の普遍的な価値を理解し、その表現技術をピアノで獲得することと、一方で学校現場でのより実践的なピアノ演奏法を車の両輪のように、身に着けさせる方法で指導してきたが、学生のモチベーションが年々下がり、苦労している。今年は、唱歌伴奏法のマニュアルを提示しグレード別に演奏させる方法を実施したいと考えている。	0.35	教師になるために必要な唱歌伴奏法に重点を置いた指導をしてきた。そういう方向では、ある程度目標は達成できたと思う。しかし、学生たちの演奏技術は、年々、低下しており、音楽へのモチベーションも低い。
研究	0.25	演奏芸術として、奥深い作品のピアノによる表現と、音楽教育や音楽療法などで、活用できる実践的キーボード奏法の両方を視野に入れた教育と研究を行ってきたが、この両者は、現代音楽、民族音楽、ポップミュージックなどとも深く関わっており、今年は、その方向で、具体的に両方の要素が作品にどう入り込んでいるのかを具体的に検証してみたいと考えている。	0.25	車の両輪のように、音楽教育用と演奏研究用として音楽作品を分類し、表現に結び付けていく事は、作品のジャンルにもよるが、なかなか難しい。結局、40年かけても、両方のバランスを取ることで、精いっぱいだったような気もする。
社会貢献	0.20	今年は大学勤務の最終年で、退官記念と新しい門出のためのボランティアやチャリティのコンサートをいろいろ計画している。今後は、大学を離れていくが、地域の文化協会などに加わった形での新たな活動が社会貢献になればと今、考えているところである。	0.20	社会貢献は、これから本格的にできていくと考えている。大学で培ったノウハウを生かしていきたい。退官後の計画は、現在考慮中である。
管理運営	0.10	残り1年間の在任期間で、管理運営からは徐々に引いていく事になるが、教室運営のお手伝いと、4年次の指導教員、および学部の教育委員をつつがなく努めたいと考えている。	0.10	自分の後任人事の為に、ある程度働けたとは思うし、現在、教室の二人の昇任人事に関わっている最中である。
進路指導	0.10	4年次の指導教員として特に、県外の大学推薦枠の教員採用に積極的に応募するよう呼びかけつつ、一方で、この就職難の時代に、他の職種への転向も視野に入れた柔軟なアドバイスも行っていきたいと考えている。	0.10	進路指導は、例年並みにはやったつもりである。しかし、学生の就職への意欲は、今一つ物足りない。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	岡田 恵美	所　属	教育学部　音楽教育	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.55	1）学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン 2）映像教材・音響教材やPPTを使用した視覚効果の高い授業プレゼンテーション 3）教員採用試験を意識した授業内容および理解度テストの実施 4）1年次指導教員としての学業・生活面での意見聴取やサポート	0.70	本年度は、着任初年度ということもあり、当初の想定以上のウェイトでもって、教育活動に従事した。 1）学生の活発な意見や積極的な授業参加が促進されるような授業デザイン 　各学生がテーマを決めて調査を行い、それを授業でプレゼンテーションする機会を設けた。学生は発表内容やプレゼン方法など、互いに刺激し合って工夫する場面も多く見られ、自主性が高くかつ対話型の学びの環境を提供できた。 2）映像教材・音響教材やPPTを使用した視覚効果の高い授業プレゼンテーション 　担当授業では、音源資料や映像資料、またPPTを効果的に用いた。また、各授業で使用するテキスト教材も全て作成し、授業後に学習内容の振り返りが容易なように、できるだけ配布資料も細やかに用意した。 3）教員採用試験を意識した授業内容および理解度テストの実施 　専門科目においては、沖縄県の教員採用試験の過去の問題傾向にも触れ、一部の授業では採用試験を意識した理解度テストも行った。 4）1年次指導教員としての学業・生活面での意見聴取やサポート 　指導教員の年次学生を中心に、合宿や懇談会を通して、学業や生活状況の把握を行い、重要な事項については頻繁に連絡を取った。 その他 　一部の担当授業（「民族音楽学」）では、間近で音や楽器、演奏家の生の声に触れる機会が重要と考え、沖縄を拠点とした外部のミュージシャンと連携して、世界各国の音楽の歴史的背景や楽器、奏法など、実際の演奏を通して特別講義をして頂く機会を設けた。
研究	0.30	1）科研費・若手研究B（24年度～27年度）の研究推進・海外調査実施 2）所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表 3）国立民族博物館の共同研究（23年度～26年度）推進 4）他大学との連携による国際芸術交流プロジェクトの推進	0.15	1）科研費・若手研究B（24年度～27年度）の研究推進・海外調査実施 　本年度が本科研プロジェクトの初年度であり、8月には3週間にわたって、研究対象地域であるインドのナガランド州を中心としてフィールドワークを実施した。インタビュー調査や映像記録、資料収集も順調に進み、今後の研究の発展への足掛りとなる充実した調査となった。 2）所属学会・共同研究会・シンポジウムでの発表 　12月には、全九州音楽学会で、口頭発表を行った。 3）国立民族博物館の共同研究（23年度～26年度）推進 　本年度は、共同研究会の日程が、本学の入試や学科内行事と重なった為、直接参加することができなかったが、メールでのやり取りを進め、共同研究グループで来年度の科研費・基盤研究の申請を行った。 4）他大学との連携による国際芸術交流プロジェクトの推進 　本学着任以前から、東京芸術大学の日本・インドの古典舞台芸能交流（日本の能とインドケーララ州のクーリヤッタム）のプロジェクトに関わっていたが、本年度の着任以後は、時間的及び資金的理由から、同プロジェクトに対して貢献することができず、プロジェクト自体にも進展がなかった。 その他 　日本学術振興会の助成（組織的な若手研究者等海外派遣プログラム）を得た、東京芸術大学のプロジェクト「英国芸術音楽の歴史と演奏に関する研究：文化交流の視点を巡って」に対して、1月に成果報告を（論文報告書）行った。
社会貢献	0.05	1）所属学会・委員会への参画 2）他大学との連携による国際交流事業としての舞台芸術公演の実施	0.05	1）所属学会・委員会への参画 　教大協九州地区音楽部会の沖縄地区理事に就任した。 　東洋音楽学会沖縄支部の支部委員に就任した。 2）他大学との連携による国際交流事業としての舞台芸術公演の実施 　上記の、研究4）と同様。
管理運営	0.10	1）学生生活委員における貢献 2）所属学科の管理運営における貢献 3）入試関連業務における貢献	0.10	1）学生生活委員における貢献 　学生生活委員の合宿ワーキンググループとして、4月および1月の合宿に参加した。また、後期には教育学部新入生合宿の運営について話し合う、「地域文化交流実習」の授業を担当した。 2）所属学科の管理運営における貢献 　毎週の学科会議の議事録作成を行った。 3）入試関連業務における貢献
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	奥田　実	所　属	教育学部　学校教育教員養成課程	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.26	・共通教育科目「陶芸の世界」～博物館見学を交えた、分かり易い授業 ・教職科目「小専美術B」～講義と実技を交えた、図画工作基礎の授業 ・教科専門科目「工芸基礎」「陶芸Ⅰ・Ⅱ」「陶芸演習」～小・中学校現場での授業も念頭においた実技指導	0.26	・前期開講科目～「陶芸の世界」「小専美術B」「美術・工芸特別演習C」 ・後期開講科目～「小専美術B」「工芸基礎」｛陶芸演習」「美術・工芸特別演習D」 ・「陶芸Ⅰ・Ⅱ」は受講者無し、「美術・工芸特別演習C・D」は科目等履修生受け入れのため開設
研究	0.03	・学校現場で応用できる、低火度で容易な焼成の実用陶器制作技法の開発	0.03	・乾燥の工程を短くする為、市販のエコ粘土に混合する除粘材等の比率を試行
社会貢献	0.03	・発達支援教育に関わる現職教員への、図画工作・美術分野の指導助言	0.01	・2012年11月沖縄県立美術館収蔵品購入審査員
管理運営	0.66	・教育学部附属小学校長として設立目的に従った学校経営～児童の成長と安全のための学校運営、少人数学級の導入と検証、教育実習生の受け入れ、教員の実践研究の統括、県教育庁及び各教育委員会との交流、近隣諸地域との交流 ・教育学部附属発達支援教育実践センター運営委員	0.66	・附属小学校全常勤職員を対象に「学校組織マネジメント研修」を取り入れ、今年度3回開催する ・今年度より新1年生の26・27人学級を導入 ・2012年8・9月教育実習で、教育学部学生63名を受け入れ ・4月・10月発達支援教育実践センターにおいて、運営会議に出席
進路指導	0.02	・美術教育専修3年次指導教員として、教員免許取得の為の履修指導	0.04	・6月に年次懇談会を、9月に1人1時間程度の個人面談（計6名）を行う
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	永津 禎三	所　属	教育学部・教育学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	昨年度後学期に実施した少人数での授業実践の経験を活かし、小学校教科科目である「小専美術」の授業改善に取り組む。 具体的には、授業構成に問題発見の要素を増やし、教育効果を検証する。 加えて、絵画基礎の教育内容も上記検証を活かして改善する。	0.30	「小専美術」の授業改善については、資料を配布し、そこから考えられる問題点をグループ討議させる形式の課題を設定し実施した。ただし、その教育効果については、学生の学力の変化等様々な要因があり検証は困難であった。 絵画基礎の教育内容については、2課題を入れ替え、改善を試みた。
研究	0.55	上記教育目標と関わりながら、「小専美術」の講義録CD-ROMの改訂増補を行う。 「写真＋物語」シリーズの作品制作、及び、絵画作品の制作を行い、12月（予定）に個展を開催する。 附属中学校美術教員と教材開発・授業実践についての共同研究を行う。	0.62	上記に関わる「小専美術」の講義録CD-ROMの改訂増補を行った 「写真＋物語」シリーズに新たに作品を追加し、絵画作品の新作を制作し、12月に名古屋の葵倶楽部で個展を開催した。新作に関する小図録2冊と展示に関わる小図録1冊を刊行した。 附属中学校美術教員の主体的な研究に協力した。
社会貢献	0.01	今年度は教育、研究に力を入れるため、特に社会貢献についての目標は設定しない。要請があれば、若手アーティスト支援や、Advisory Staff　派遣事業等に協力する。	0.00	今年度は特に行なわなかった。
管理運営	0.10	学生生活委員会就職推進部会長及び教員採用試験対策セミナーWG委員としての職務を遂行する。	0.04	職務は遂行したが、特に教員採用試験対策セミナーWGについては國吉WG長の働きが大きく、委員としての職務は軽減された。
進路指導	0.04	認定試験問題作成と実施について活動する。 教員採用試験対策セミナーの実施の他、教員採用試験の支援に努める。 県内学校の補充教員や非常勤講師等への採用に向け学生を支援する。	0.04	認定試験問題作成について担当分を作成した。 教員採用試験対策セミナーにおいて図工（鉛筆デッサン）の指導を行なった。 非常勤講師等への採用に向け学生を支援した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	竹野欽昭	所　属	保健体育講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	専門科目では、体育教育の現場で見られる運動の事象と指導の理論との関係を学生に理解してもらい、最新の研究も紹介しながら即戦的な指導力の養成を行う。共通教育科目では、講義をうまく活用し、習慣的な運動がもたらすメリットを学習してもらうとともに、運動の実施と継続への動機づけを高めることができるように工夫する。	0.00	・・・専門科目では、実際の体育教育の現場で見られる運動の事象を幅広く取り上げ、その事象と指導理論との関係を学生に理解してもらえた。共通教育科目では、視覚的教材も活用し、授業で行った運動の効果を実感しながら習慣的な運動がもたらすメリットを分かりやすく学習してもらえた。
研究	0.30	これまでの研究課題の結果報告と総括に取り組むとともに、新たな研究課題の設定を行う。また、研究誌への研究論文の投稿を行う。外部研究資金の獲得については、少なくとも1件以上の申請を行う。	0.00	・・・これまでの研究課題について学会発表を2件行い、外部へ研究成果を発表することができた。また新たに設定した研究課題について、研究論文を紀要に3件掲載することができた。
社会貢献	0.10	近隣の公立学校などで、専門の体育に関連した学習支援やスポーツ支援を行い、地域貢献を行う。	0.00	・・・沖縄県内の中学校で、依頼に基づいてメンタルトレーニングの講習を実施し、地域貢献を行った。所属学生にもボランティアとして参加させ、地域貢献とともに教育現場での指導体験を行う場を作った。
管理運営	0.10	講座主任として講座運営関連業務に取り組み、所属教員の業務や学生の教育活動がスムーズに行われるよう支援を行う。	0.00	・・・講座主任として、講座運営、講座人事などの業務をスムーズに行うことができた。
進路指導	0.20	所属講座が独自に実施している教員採用試験対策セミナー（週2回）を担当し、教員採用試験対策の効率的な取り組みと、学生への採用試験・最新情報の提供を継続する。	0.00	・・・保健体育講座が独自に実施している教員採用試験対策セミナー（週1回）と沖縄県中高体育教採100m走対策としてのスプリントワークショップ（週1回）を年間を通して実施し、十分な進路指導に取り組むことができた。本年度は教員採用試験前の面接対策セミナーも新たに実施した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	清水　洋一	所　属	教育学部・教育学研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	1）前期・後期合わせて学部9科目、大学院8科目（熱工学特論・同演習、エネルギー変換工学特論・同演習、課題研究ＩＡ・ＩＢ、課題研究ⅡＡ・ⅡＢ)の講義を行う。 2）卒業研究及び修士論文の指導を行う。 3）エネルギー―関連施設の見学会をコーディネイトする。 4）附属小・中学校の研究授業の支援や教材開発を協同で行なう。 5）外国人研究生2名の指導教員を務める。 6）観光科学科・「総合環境学概論」を1コマ担当する。	0.35	1）前期・後期合わせて学部9科目、大学院8科目（熱工学特論・同演習、エネルギー変換工学特論・同演習、課題研究ＩＡ・ＩＢ、課題研究ⅡＡ・ⅡＢ)の講義を行った。 2）卒業研究及び修士論文の指導を行った。 3）中学生及び大学生を対象に、石油精製施設、火力発電所、バイオマス再資源化センター、BDF精製施設等の見学会を実施した。 4）附属中学校との共同研究、研究授業の支援や教材開発を行った。 5）外国人研究生2名の指導教員を務めた。 6）観光科学科・「総合環境学概論」を1コマ担当した。
研究	0.35	1）日本エネルギー環境教育学会や沖縄エネルギー・環境教育研究会において、研究発表や教育実践を行う。 2）国際会議（タイ国）において研究発表を行う。 3）海を活かした教育PJにおいて、海洋エネルギーに関する教材開発及び教育実践を行う。 4）日本機械学会・技術と社会部門講演会にて研究発表を行う。	0.35	1）日本エネルギー環境教育学会第7回全国大会（岩手大学）において、波力発電、セルロース系バイオマスの酵素糖化に関する教材開発について2件の研究発表を行った。 2）2nd JTSTE2012（タイ国・パタヤ）において3件の研究発表を行った。 3）海を活かした教育PJにおいて、海洋エネルギーに関する教材開発を行った。恩納村立仲泊中学校にて、波力発電に関する出前授業を行った。
社会貢献	0.20	1）平成24年度琉球大学公開講座を実施。 2）小・中学校等へ出前授業・実験を実施。 3）那覇市環境フェア、県民環境フェア等にて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行う。 4）日本機械学会・技術と社会部門講演会のオーガナイザーを務める。 5）国際会議（タイ国）の国際実行委員会の委員を務める。 6）琉球大学生協・理事長を務める。 7）アジェンダ21県民会議・副会長及び環境部会委員を務める。 8）環金武湾地球温暖化対策地域協議会の会長を務める。	0.20	1）平成24年度琉球大学公開講座を2回実施した。 2）那覇市立識名小学校、浦添市立港川小学校及び恩納村立仲泊中学校において出前授業を実施した。 3）沖縄の産業祭り、識名っ子祭り（識名小学校）、那覇市環境フェア等にて、エネルギー環境教育に関する普及・啓発活動を行った。 4）2nd JTSTE2012学術会議（タイ国・パタヤ）の国際実行委員会の委員及びセッションのチェアを務めた。 5）日本エネルギー環境教育学会の理事を務めた。 6）日本産業技術教育学会の評議員を務めた。 7）琉球大学生協・理事長を務めた。 8）アジェンダ21県民会議・副会長を務めた。 9）環金武湾地球温暖化対策地域協議会の会長を務めた。 10）沖縄県、日伯エタノール協会、語学センター主催のセミナーにおいて3回講演を行った。
管理運営	0.05	1）教室主任及び専修主任を務める。 2）ESD検討WGの学部委員を務める。	0.05	1）教室主任及び専修主任の職務を全うした。 2）ESD検討WGの学部委員として、委員会で適宜発言する等職務を全うした。 3）3件の教員選考委員会の委員を務め、そのうち2件は委員長として職責を果たした。
進路指導	0.05	教員採用試験対策の一環として、適宜担当する講義・実習を通して、関係する過去問題について詳説する。	0.05	教員採用試験対策の一環として、適宜担当する講義・実習を通して、関連する過去問題の内容について詳説した。更に、進路・就職に関する指導・助言を適宜行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小野寺清光	所　属	教育学部教員養成課程技術教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	①電気電子系講義に関し、実践的な教育力を養なうことを目的に、教材開発に資する実習内容を積極的に取り入れていく。 ②教員免許更新講習（7月）、附属中体験授業（9月）を実施する。 ③研究室学生とETロボコンに参加し、教育効果を検討する（10月）。	0.30	①「電気電子応用工学特論」では、ロボットの教材用途のため、加工が容易な市販プラスチック材料をを取入れ。「生活科教育概論」では、風で動く車の試作、指導案づくりを実施。 ②モータの測定と分解に関する体験授業（7月）を附属中にて実施し、内容はH24年度末の紀要に投稿中。教員免許更新講習は実施せず。 ③ETロボコン沖縄大会には登録したが、スケジュール調整できず競技会に参加できず。
研究	0.50	①圧電素子を用いた中学生向けジャイロ教材開発を実施する（修論）。 ②滑走推進を用いた中学生向けロボット教材開発を実施する（卒論）。 ③中学生向教材として開発中の二足歩行ロボット動作安定化を進め、研究成果報告を行う（10月）。	0.60	①圧電素子の回路モデル化と中学生向け実験授業の内容を産技学会九州大会にて発表（10月）。クルスマスツリーに関連する教材として小学生でも実験授業を実施（12月）。 ②市販プラスチック材料で、中学生向けの滑走推進ロボット教材を開発。 ③チェビシェフリンク利用ロボットの試作内容を産技学会九州大会にて発表（10月）。更に歩行動作安定化に向け基礎データ取得中である。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.05	①今年度から情報システム運用・管理規定が施行されるため、全学情報システム運用委員会の部局技術責任者として、部局委員会の運営、手順書等の作成を行う。	0.50	①全学情報システム運用委員会部局技術責任者として、運用・管理規程部の改正に関わる局内意見集約および調整を実施。部内システムの把握、定期点検の手順書（案）の作成も実施。
進路指導	0.05	①2年次指導教員として学生の状況を細かく把握し、履修指導、生活指導を行う。 ②研究室学生については、B4、M2の進路指導を強化する。特に教員採用への応募に関しては、県外も積極的に視野に入れるよう指導していく。	0.50	①2年次は気の緩みからか前期成績不振の傾向が強かったため、指導教員として特に継続的に生活指導を実施。 ②B4、M2に関しては大学推薦も含め、県外も積極的に視野に入れるよう指導。また、研究室内で教員採用試験対策の勉強会を週1で実施。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.90	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	福田　英昭	所　属	教育学部　技術教育	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	①「職業指導」（前期および夏の工学部集中講義）の毎回の講義内容を公開するため，研究室のホームページを更新する。②木工室の設備更新調査票を作成し，古い木工機械の設備更新を行う。③前期の講義「木材加工基礎」，「木材材料学」および「職業指導」を一般向けの公開授業に設定する。④昨年度より新設開講された前期の「小学校ものづくり実習Ｉ」および後期の「小学校ものづくり実習Ⅱ」の講義の新規教材開発を行う。⑤「教職実践演習」として本年度まで実施するプラクティススクール「琉大附属アチ高校」の活動を支援する（本年度は，兵庫県篠山市立西紀中学校，大阪府堺市立美原西中学校の計2校との活動を予定）。⑥研究成果の内容を「木材材料学」の講義内容に反映させる。	0.25	①③④⑥については，予定通り実施できた。 ②の木工室の設備更新については，十分にできなかったが，研究費で木工具を数多く買い換えることができた。 ⑤の「教職実践演習」については，本年度より担当者が岡本先生に代わったので，次年度以降はその活動を支援することになった。
研究	0.25	①研究室の紹介および研究成果を紹介するため，研究室のホームページを更新する。②教育学部紀要第82集（10月締切）に論文を投稿する。③3年前からスタートした科研費の研究課題「児童・生徒の教室用机・椅子の検討」のデータを分析し，最終報告書を作成する。④前村先生（社会），片岡先生（美術）らと共に昨年度から継続している紙漉きプロジェクトを実施し，紙漉きの新しい教材・教具（簀桁など）を開発する。	0.20	①については，予定通り実施できた。 ②の学部紀要については，予定通りに投稿できなかったが，その代わりに，前村先生，片岡先生，岡本先生らとの紙漉きプロジェクトメンバーで，１月締切の教育実践総合センター紀要に論文を投稿することができた。 ③については，まだデータ分析中である。 ④の教育・研究企画事業については，予定通り実施できた。 ⑤2年前から執筆中の「木材切削加工用語辞典」（「工具」の項目１４０語を担当）については，校正が完了し，次年度に出版予定である。
社会貢献	0.15	①沖縄エネルギー・環境教育研究会（清水洋一先生 代表）の連絡係として，定例研究会を執り行い，各種イベントや出前授業等の企画・運営を行う。②沖縄県立芸術大学において開講される「図法及び製図」（通年）の非常勤講師を担当する。③プラクティススクール「琉大附属アチ高校」の教育学部学生とともに，総務部総務課，学生部入試課や近畿日本ツーリスト等と連携して，本土からの修学旅行生の学習活動をサポートする。④日本産業技術教育学会の九州支部理事として，学会の運営活動を行う。	0.15	①については，２月に「電気のゴミワークショップ」を開催し，日本科学技術振興財団とNUMOのスタッフと共に，沖縄エネルギー・環境教育研究会主催で開催した。 ②については予定通り県立芸大で非常勤講師を担当できた。 ③については，本年度は特に活動を行っていない。 ④の学会活動については，理事として運営活動を行った。 ⑤本年度からスタートした国頭村主催の「木工マイスター養成講座」（１２月と2月にそれぞれ3日間実施）では，島根大学山下晃功名誉教授と共に，実習・講義を行った。
管理運営	0.25	①副学部長として（学部運営会議のメンバーとして），中期計画，予算配分，人事調整，附属学校運営，施設見直し等を企画・実施する。②学部の入試委員長として，入試業務を遂行し，「学部パンフレットWG」および「学部広報WG」の企画・運営を執り行う。また，県内高校を訪問し，入試説明を行う。③学部の研究企画委員として，GP企画プロジェクト等を策定し，自己評価点検業務を担当する。④日本教育大学協会九州地区技術教育部門の全国委員として各種調査に協力する。	0.30	①②③④については，ほぼ予定通り実施することができた。また，１０月には「大学・自治体教育フォーラム」，１月には「県市町村連絡協議会（仮称）準備会」を実施し，１月にはリアセック社の「PROGテスト」を企画し，その報告会を2～3月に実施した。また，琉球新報社と連携したNIEについては，後期に学部教員5名の講義の中で新聞講座を実施していただき，年度末3月には，琉球新報社と教育学部の連携に関する協定書（覚書）の締結をすることができた。
進路指導	0.10	①技術教育専修1年次の指導教員として履修指導等を行い，年次別懇談会を行う。②「職業指導」の講義で受講学生に最新の就職関連情報を提供する。③技術教育科同窓会の書記・会計担当者として，技術教育専修の卒業生の動向をチェックし，会員データベースを最新のものにする。また，本年度は総会開催の年であるため，総会を企画・実施する。	0.10	①②については，予定どおり実施できた。③の技術教育科同窓会については，１１月に総会を那覇市内ホテルで開催することができた（企画，案内状郵送，受付を担当した）。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	岡本牧子	所　属	教育学部	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	1.アジア系留学生への学習指導について別途30分/週程度の時間を設ける(大学院) 2.国内の教育系学会へ参加し、口頭発表を1件以上行う。 3.紀要などの論文投稿を1件以上行う。	0.30	1．語学力の向上も含んだ指導として、当該講義のアジア系留学生への課題を特別に用意し、評価することができた。 2．今年度は国際学会の教育系セッションでの発表を1件行った。 3．今年度から参加した紙漉プロジェクトにおいて、共著で紀要への投稿を行った。 その他、担当講義での評価について、追試対象者が多かったため、定期テスト(70%⇒60%)のほかに、演習や提出物(30%)を新たに評価事項に加えた。
研究	0.35	1.教育業績の研鑽を優先するため、今年度は研究分野の国内学会発表１件、投稿1件程度を目標とする。 2.昨年度から進めている新しい溶射ノズル開発、特許取得を企業や工専などと一緒に進めていく。 3.寄付金等の外部資金の獲得。	0.35	1.国内で行われたアジア溶射会議に参加し、発表を行った。タイで行われた国際学会では、発表賞を受賞した。論文投稿については、共同研究先の実験データ評価が2103年2月にずれ込んだため、来年度になる予定。 2.特許取得について、企業が撤退したため工専と今後について協議することになった。 3.今年度新たな外部資金を得ることはできなかった。
社会貢献	0.10	1. 大学の公開講座の講師を１件担当し、小中学生を対象として、エネルギー教育をテーマとした講義／教材の提案を行う。2.県内中学校の技術科教員との連携を深めるネットワークづくりの基礎を展開する。	0.15	1.大学の公開講座講師を2件担当した。 2.国頭地区および島尻地区の中学校を訪問したり研究会に参加することで、本学出身以外の技術科教員とも授業づくりや技術科教育の問題点を共有することができた。その他、オープンキャンパスでの女性研究者講師、教員免許講習、内閣府主催省エネ事業講師を担当したほか、青少年科学作品展参加にあたり、企業側から工作教室のあり方について問われ、意見交換を行った。
管理運営	0.10	1.認定試験問題の作成に参画する。 2.学部の教育委員会へ参画する。	0.10	1.認定試験問題の教育法分野の作成を担当した。 2.学部の教育委員会のほか、全学の発明審査委員、学部の教育企画WG委員、一般入試委員を担当した。
進路指導	0.15	1.技術科教室3年次の指導教員として、年2回3年次全員に対して個別面談を行い、学生の現状把握に努める。	0.10	1.技術科教室3年次に対して随時面談を行い、教員志望者へは大学推薦や採用試験問題の案内（過去問の回答）、就職希望者へはエントリーシート作成の案内を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前		新垣　学	所　属	教育学部技術教育専修	職　名	講師
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.35	・組込型コンピュータを利用した教材を授業に取り入れる。 ・学生が学習結果を発表および卒業後も復習できるように、ホームページを製作する能力を養成するとともにその更新を支援する。 ・学生へ学習環境を提供するため、ネットワーク及びコンピュータの整備。 ・教育実習生への指導・助言		0.35	・組込型コンピュータを利用した自立走行車の製作を授業に取り入れ、学生がライントレースや升目の8の字走行、照度に応じ点滅パターンが変わる信号機のためのプログラミングを行えるようにした。 ・開講した5つの講義において学習結果を各自のホームページに掲載できるように指導した。 ・無線ネットワークを技２１６に整備し、他の教員の講義においても利用できるように整備および管理した。 ・教育実習生2名の授業を参観し、指導助言を行った。	
研究	0.35	・新指導要領を鑑みた組込型コンピュータを利用した教材開発。 ・教員免許更新講習用教材の開発		0.20	・教員免許更新講習の講習生より計測制御の授業に活かせる講習という要望をうけ、3次元計測利用の計測制御教材を開発するために環境の整備および資料収集を学生の卒業研究指導も兼ねて行った。	
社会貢献	0.10	・教員免許状更新講習を開講する。		0.20	・教員免許状更新講習として「マイコンを用いたおもちゃ作り」を2回開講した。 今回、ろう者に対応するため、講習内容を口述説明も含めすべてテキスト化した。 また、講習をスムーズに行うための試みとして39名分の基板をある程度組み立て半完成品とした。結果として受講者の評価で高評価を得ている。	
管理運営	0.15	・教育実習委員としての業務を行う。 ・4年次指導教員としての業務を行う。 ・入試に関する業務を行う。		0.20	・教育実習委員としての各施設への学生の引率、施設や実習先との連絡、介護等体験指導の運営、種々の体験のための学生指導といった業務を行った。 ・4年次指導教員として各学期ごとの学科別懇談会および種々の連絡、アンケートを行った。 ・センター試験の監督業及びその準備、推薦入試、大学院入試などの入試に関する業務を行った。 ・各種会議	
進路指導	0.05	・4年次指導教員として進路指導を行う。 ・就職支援のために認定試験問題の作成を行う。		0.05	・4年次指導教員として他県の教員採用の案内および就職説明会の案内を行った。 ・認定試験問題として技術分野の情報および栽培分野のみならず一般教養の情報の問題作成を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	花城　梨枝子	所　属	教育学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	①院生の修論指導をしっかりする ②授業内容に最新の情報を入れる	0.20	①院生と共著で日本消費者教育学会学会九州支部会及び第32回全国大会（10/20～21）で「消費生活領域におけるインターネット関連授業実施」を発表し、現在投稿中。院生は3月に修了予定。 ②最新の情報を入れた。
研究	0.30	①消費者シティズンシップ教育について書く	0.30	①「携帯電話利用における消費者教育について―大学生のオンラインゲーム，SNSを中心に」古波蔵愛美加，花城梨枝子，消費者教育Vol.32，193－201，2012 ②「消費生活領域におけるインターネット関連授業実施」を投稿中
社会貢献	0.10	①日本消費者教育学会評議員 ②日本大学協会家庭科部門運営委員 ③消費者ネットワーク活動やクレジットサラ金被害をなくす会の活動に関わる（幹事）	0.10	①日本消費者教育学会評議員 ②日本大学協会家庭科部門運営委員として平成24年度北海道大会の庶務 ③講演2：岐阜県高等学校教育研究会家庭部会東濃支部夏季研修会（8／10），沖縄県県民生活センター消費者教育講座（2／5） ④学会誌査読4：生活経済学研究1編査読，日本家政学会誌1編査読（JHEJ-D-12-00059），日本消費者教育学会誌2編査読 ⑤琉球大学うない研究者支援センターキックオフシンポジウム（2/14）パネリスト ⑥「携帯電話における消費者教育教材」（院生と共著）を作成し学校現場へ配布 ⑦平成23年度作成の消費者教育教材「社会をつなぐあなたの消費」消費者庁ホームページへリンク （http://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/kemminseikatsu_center/1120.html） ⑧那覇市委託アースの会4R推進事業に関するセミナーでの高評（3/17予定）
管理運営	0.30	①男女共同参画室の室長として，女性研究者支援センター立ち上げの企画，実施に関わる ②研究推進戦略会議の委員として研究支援に関わる	0.30	①男女共同参画室の室長として，JST女性研究者支援事業（約6000万円、26年度まで）に申請し採択された。それを受けて女性研究者支援センターを立ち上げ、研究補助員配置、メンター制度、シンポジウム等に関わっている。 ②研究推進戦略会議の委員として研究支援に関わる
進路指導	0.10	①過卒生も含めて，例年通り採用試験のための模擬授業支援をする	0.10	①残念ながら本年度，本教室では1次合格者が不在で，模擬授業支援は行っていない。採用試験のための情報提供や激励等の支援に留まる。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	富士栄　登美子	所　属	教育学部(生活科学教育専修)・教育学研究科(家政教育専修)	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	▼324教室の設備工事が終了した。床張り・壁塗りに続いて、キッチンシステムが新しくなり、実験実習を多く取り入れ、活用したいと思う。 ▼多くの学生を受講させるため、夜間授業を開設する。 ▼学生の，学生による，学生のための教育をしたいと思っている。	0.30	▽3年間かけて、富士栄の管理責任である324教室の黒板・床・壁・椅子・机・システムキッチンが新しくなった。おかげで明るい学習環境となり、授業効果も出てきていると実感する。324教室は、授業だけではなく、入試会場・卒業式・謝恩会・入学式・オリエンテーション・オープンキャンパスなど多目的に活用されている。 ▽年度はじめに設定した教育目標は、おおむね到達することができた。
研究	0.10	▼日本家政学会九州支部常任幹事として若手研究員を支援する。 ▼学会などの研究大会、研修へ積極的に参加し、研鑽をつむ。 ▼継続して附属中学校との共同研究を進める。	0.20	▽日本家政学会九州支部常任幹事として働き、2014年度全国大会九州大会へ向けての準備が始まっている。 ▽今年度フランスで研修してきたことをまとめ、次年度日本家政学会東京大会で発表する。 ▽附属中学生の琉大体験（被服実技を取り入れた授業研究）を実施した。
社会貢献	0.20	▼日本家政学会九州支部常任幹事に就任（任期：H.24年6月～26年3月） ▼教員免許更新講習を開設する。（H.24年8月10日）教員によるアンケートから要望の多い実技を取り入れる。	0.10	▽教員免許更新講習では、実技を取り入れた講座を開設した（2012年8月10日）結果、2日間でやって欲しいとの受講生からの要望があった。次年度は、要望に応える形で計画している。（2013-08-22,23実施予定）
管理運営	0.30	▼生活科学教育教室の主任としての任務と責任を果たす。 ▼24年度入試の受験生激減に対しての対応策のひとつとして、生活科学教育専修の広報を作成し、県内全高校、県外入学生の出身高校へ配布する。高校家庭科教育研究会へ出向き説明・勧誘を行う。 ▼入試委員、入学試験問題作成委員長及び世話人としての役割と責任を果たす。	0.30	▽4月すぐに生活科学教育専修案内アピール文を作成し、予定どおり配布した。作成したパンフレットは手を加えて、来年度の学部案内の原稿に使うことができ、苦労した甲斐があった。 ▽まだ個別学力検査（一般入試）を残しているので、最終結果はこれからであるが、配布したアピール文は卒業生（現職教員）などからの手応えがあり、役割と責任は果たすことが出来たと思っている。
進路指導	0.20	▼４年次指導教員として、生活のこと、進路のこと、学業（卒論など）のこと、働くことの意味、ワーク・ライフ・バランスなどについて懇談する。	0.10	▽2012年3月退職者が学年指導教員であった4年次学生を引き継いだ。 ▽2013/2/5現在4年次5名の就職状況は、1）K.K.ヌーヴ・エイ（広島勤務）に内定、2）臨時学校図書館司書に応募中。3）小学校臨時教員志望2名、4）中・高等学校非常勤講師志望1名である。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	山内　進	所　属	教育学部　英語教育	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・（前期学部担当科目）基礎演習、TOEFL演習、英文法演習、 ・（後期学部担当科目）TOEFL演習、英語科教育法C、英語教育学演習 ・（前・後期研究科担当科目）英語科教育研究Ⅰ&Ⅱ、課題研究Ⅰ&Ⅱ ・上記各担当科目のシラバスに掲載されている目標を達成できるように努力する	0.30	・学部、大学院科目とも予定どおりに授業を行った。 ・各担当科目のシラバスに掲げられている目標は概ね達成できた。 ・修論指導の大学院生が修論を書き終え、２月に修士論文発表会を行い、３月に修了予定である。
研究	0.30	・ 九州英語教育学会『紀要』や沖縄英語教育学会紀要SELT-OKINAWA等に研究論文、研究ノート、エッセイなどを投稿する ・九州英語教育学会会長として、今年８月の全国英語教育学会の地区担当授業研究フォーラム等の研究アドバイスを行う	0.20	・九州英語教育学会『紀要』40号（2012年７月25日発行）にIntereltionship between Reading Comprehension and Proficiency in Incidental Vocabulary Meaning Acquisition in L2 Reading（共著）を発表する。 ・沖縄英語教育学会の会員に論文執筆指導、九州英語教育学会の会員に授業研究フォーラム発表との指導、アドバイスを行った。
社会貢献	0.20	・ 平成22年４月より九州英語教育学会会長に就任、九州地区全体の英語教育の発展に貢献できるよう、研究会等を企画、運営する ・沖縄英語教育学会会長として、同学会の主催する研究大会、その他諸活動の企画、運営を行い、県内中学・高校英語教員の資質向上を図る	0.30	・九州英語教育学会会長として、幹事会、理事会、研究大会等を通じて九州地区の英語教育の発展に努める。１２月には学会の年次研究大会を長崎外国語大学にて行う。 ・沖縄英語教育学会は、2012年度に合計で3回の研究大会、講演会等を実施、また同学会の紀要も8月に発行した（紀要編集委員長を勤める）。
管理運営	0.10	・学部生活委員及び法文学部国際言語学科と共同の合同会議委員としての諸職責を果たす	0.05	・学部生活委員会では各種推薦・調査WG委員としての職責を果たした。 ・法文学部国際言語学科との合同会議において紀要編集委員会に属し、紀要の発行その他の職責を果たす。
進路指導	0.10	・生活委員として特に3，４年次学生に対して適切な進路指導を行う ・１年次指導教員として、将来の教員としての自覚を促し、適切な修学指導、進路指導を行う	0.05	・生活委員として上記の職責以外に、認定試験の英語問題を作成する。また、教員採用試験対策セミナーでは小学校教員採用試験受験者に対し、英会話個人面談の指導を行う。
			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.90	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	平良勝明	所　属	教育学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	英国や米国の最新記事や文学作品をホームページを介して教材として使用し、学生の英語圏への文化的理解を深めるとともに言語学習意欲も最大限刺激する教育を目指す。	0.00	最新のニュースや記事を逐次配信しているインターネットのサイトやその他のメディアコンテンツを利用して学生の英語圏への文化的理解を深める努力に努めた結果、学生の学習意欲や興味を向上させることに成功した。
研究	0.35	Virginia Woolfの作品における断片的かつ融合的な意識世界の展開に関する論文を執筆する。	0.00	Virginia Woolfの前衛的で流動的な意識世界を研究・分析してそれを二編の論文に纏めて紀要等で発表することができた。
社会貢献	0.20	ホームページ（http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~iluvelyn/）を利用して英語の世界（言語ならびに文化）に親しみ、そして浸れるインターフェイスの構築ならびに充実を図る。	0.00	ホームページ、そしてマルチメディアコンテンツを利用した英語の世界そしてその文化に親しむことが可能なインターフェイスの整備・充実に取り組むことができた。
管理運営	0.05	法文学部外国語系列教員と教育学部英語教育専修教員とで構成する情報システム委員会の委員として外国語、並びに共通教育の発展と充実に寄与するとともに学科主任として学科の円滑な運営を目指す。	0.00	情報システム委員会の委員として外国語、並びに共通教育の発展と充実に寄与するとともに、学科主任としては学科の円滑な運営のために最善を尽くした結果、大学や学部にある程度貢献することができた。
進路指導	0.05	二年次指導教員として学生の教育並びに生活・進路指導に貢献する	0.00	二年次指導教員として大学生活や学業に関する援助をメールやインターネット等を利用して積極的に行ったこともあり学生の教育・生活指導並びに学生生活全般の充実に貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	大 城　賢	所　属	教育学部学校教育教員養成課程英語教育専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	大学院：大学院1年次学生の指導教員として見通しをもった論文指導を行う。英語科教育特論において学生の興味関心に沿いながら講義を展開する。学部：5人の学生の卒業論文指導を行う。英語科教育法A，B及び外国語活動のクラスにおいては学生中心の講義を展開し，年度末には授業記録（教科通信）をまとめ，次年度の講義に活かす。	0.00	大学院1年次の学生は修士論文の構想をまとめることができた。卒業論文の学生（教育学部英語専修3人、教育実践学1人、法文学部国際言語1人）は全て論文を書き上げることができた。英語科教育法及び外国語活動のクラスにおいては毎回授業リフレクションを学生に行わせ次の授業へ活かすことができた。個人のHPにおいて研究授業の様子や資料などを提供することができた。
研究	0.15	「韓国における英語教育の総合的研究」と「児童英検及び英語能力テストをもちいた英語力と情意面の関連に関する研究」の二つのテーマで受託研究費を頂きている。この二つのテーマを中心に研究を行う。	0.00	韓国への調査3回、韓国研究者の招聘2回を行うことにより、「韓国における英語教育の総合的研究」が進んだ。小学校外国語活動についても、県内9校で児童英検を実施することができた。研究の成果は次年度に論文としてまとめる予定である。
社会貢献	0.15	小学校の外国語活動及び中学校，高等学校の英語指導法に関するセミナーや講演などを通じて地域への貢献を行う。	0.00	文部科学省研究開発学校企画評価会議委員。那覇市小中一貫教育審議会座長。浦添市英語教育推進委員会委員。文部科学省英語拠点校（那覇国際高校）運営指導委員会委員（指導助言）。福岡県教育センターにて講演。福岡県大牟田市立明治小学校研究指導及び研究大会指導助言。佐賀県吉野ヶ里町教員研修会にて講演。長崎県波佐見町教員研修会にて講演。山形県最上地区英語研究会にて講演。宮古地区教育課程研修会講師。八重山地区教育課程研修会講師。全国小学校英語活動実践研究大会にて指導助言。福岡県南筑後英語研修会にて講演。免許更新講習講師。
管理運営	0.50	教育学部附属教育実践総合センター長として，センターの管理運営にあたる。また，学部運営会議のメンバーとして学部長を支え，学部運営に携わる。	0.00	教育学部附属教育実践総合センター長としてセンターの管理運営にあたったが、地域連携部門、共同研究部門でやり残したことが多かった。学部運営会議のメンバーとして学部運営に携わったが、十分役割を果たすことができなかった。
進路指導	0.05	卒論指導の学生を中心に適切な進路指導を行う。	0.00	卒論指導の学生を中心に適切な進路指導を行った。
その他	0.00		0.00	神戸市外国語大学大学院にて夏期集中講義を行った。日本児童英語教育学会副会長。小学校英語教育学会常任理事。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	與儀峰奈子	所　属	教育学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	前期は大学院必修科目1コマ、共通教育の「大学英語」4コマの計週5コマを担当する。 後期は大学院必修科目1コマ、学部専門必修科目の英語科教育法C2コマ(昼・夜)、専門選択科目では英語資格演習を1コマ の計週5コマを担当する。上記の他、登録希望学生がいれば修士論文・卒業論文指導を行う。大学院では「授業研究・教材論」担当、海外・国内の外国語の授業分析を行う。共通教育では琉球大学の新テキストを用いた「大学英語」を担当する。英語科教育法Cで将来教員を志す学生を指導し、英語資格演習ではTOEIC, 英検等のスコアが伸びるような指導を心掛ける。	0.40	すべての講義において綿密な教材研究を行い、授業内容に工夫し熱意をもって授業を行った。
研究	0.20	3年目の科研基盤Cを遂行する。特に英語教員養成プログラム及び現職教員の再教育等に関する研究を行う。	0.20	英語教員養成プログラム研究の一例として英語科教育法のクラスで海外の教育機関との遠隔交流を実施した。学生は自作の教材を交流相手に披露し反応を得ることで、教科内容に関する関心も喚起され、指導技術や教師としての力量を体験的に磨くことができる。本年度実施可能な内容はすべて遂行した。
社会貢献	0.10	公立・附属学校研究大会における指導助言担当や英語スピーチコンテスト等の審査員を行う。	0.10	附属学校研究大会・校内研究会における指導助言および中学校英語弁論大会の審査員を担当し、県立高等学校における社会人講話なども行い外部に向けても社会貢献した。
管理運営	0.20	学部入試委員、国際言語と合同のFD委員(全学英語統一試験GTEC等)、全学英語入試採点委員等で管理・運営に携わる。	0.20	それぞれの委員会活動に従事している。
進路指導	0.10	教員採用試験前の英語対策講座を学科で開催。教育学部主催の英語面接員担当。卒業生を講師に迎え就職説明会を開催する。進学、就職いずれについても相談は随時受け付けている。	0.10	教員採用試験前の英語対策講座の英語面接員を担当した。卒業生を講師に迎え就職説明会を開催した。就職に関する情報が入り次第メールで周知し、資料を提供した。進学、就職いずれについても相談は随時受け付けている。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	加　藤　好　一	所　属	教育学部　社会科教育研究科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0,30	社会科教育研究や生活科教育研究においては、グループワークのいっそうの強化を図るため、その課題・方法・評価などを改善する。ゼミには新たに3年生4名が加わったので、4年生4人をふくむ相互学習の場と個別指導を適切に組み合わせつつ個々の卒論指導のさらなる充実を図る。	0,30	社会科教育研究・生活科教育研究においては、シラバスをさらに整理し、15回を通しての講義の流れをさらに明確化できた。グループワークは定着した。卒論指導は個に応じた支援を強化し、8人でのゼミ運営も4年をリーダーにして円滑にすすめることができた。
研究	0,25	昨年度末の3著の刊行に続き、新指導要領に対応した『新・日本地理授業プリント』の原稿執筆をすすめて刊行につなげたい。伊東市史近現代編（1）の次年度刊行に向けて資料の収集・選択をさらにすすめ、併せて『伊東市史研究』に大正時代の村についての研究論文を執筆したい。	0,25	『新・日本授業地理プリント』（地歴社）『中学公民の授業』（民衆社）は、共にこの3月に発刊できる。『市史研究』への論文執筆も実行することができた。市史・近現代史料編は、発刊に向けての準備作業がすすみ、この3月から具体的な編集作業に取り掛かる。
社会貢献	0,20	沖縄県中学校社会科教育研究会の要請により、全中学社会科教師中の希望者に対し年9回の実践力向上講座を開催する。（本島及び八重山地区において）小学校社会科研究会とも連携して、川崎小学校など各校での講演・授業支援を行う。現場教師の相談にも適宜答えていきたい。	0,20	沖中社研実践力講座を本島・八重山の各地区において、それぞれ7回ずつ実施することができた。島尻小社研の研究会は定例化し、宮古・国頭から中部・南部に至る小中学校でもさまざまなかたちでの授業支援をすすめることができた。
管理運営	0,10	昨年に引き続き、宜野湾市内各校でのFWⅡ実施（後期）に向けた体制づくりを、担当者として円滑に推進する。その活動についても、昨年度の反省をもとにさらに充実させたい。附属小中との共同研究も、これまでの成果を確認した上でさらに発展させたい。	0,10	FW2は無事終了し、次年度以降2年間の実施についても宜野湾市教委との話し合いをふまえて見通しをつけることができた。附属小との生活科研究は、担当教員の育級のため1時き休止したが、中学校との社会科共同研究は順調にすすめることができた。
進路指導	0,15	3年次指導としては、卒業・就職に関わり2年間を見通しての助言・支援に力を入れる。教育実習に際しての授業相談も重視したい。また、3・4年生からの相談に際しては、長い間の教員経験を生かして個に応じた対応・自信を深めるような助言に心がけたい。	0,15	3年次指導としては、希望学生を集めて週1回の社会科補習講座を定例化することができた。学生との相談はさらに深いものとなり、2月からは就職予定学生（小学校）への直前研修をすすめている。
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

名　前	小田切忠人	所　属	（学部・研究科等）	教育学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比		年度末自己点検結果
教育	0.25	前期七コマ、後期四コマの学部・大学院の講義・ゼミが予定されている。なお、今年は教育実地指導講師及び非常勤講師の協力を得て行う。	計画通り実施した。
研究	0.35	スペシャル・ニーズの子どもへの教育介入フィールドワークを週1のペースで進める。この研究成果を数学教育協議会の沖縄地区大会や全国研究大会などで発表する。特に今年は、科研費で進めている二件の研究で、国際会議参加発表（ICME12、韓国）と研究交流（PISA、デンマーク）を行う。	計画通りに進めた。特に、国内研究発表は、数学数学教育協議会の全国研究大会（鹿児島大会）（2012年８月）と（「数学的認識発達スペクトラムと教育介入課題」）、同春の全国研究集会（2013年２月）（桐朋学園）（「十進法の概念を獲得するとはーその学習の過程ー」）で講座を担当した。また、国際会議では、ICME12のTSG4で口頭発表した（Mathematical Achievement and Creativity Inherent in Children with Special Needs）。
社会貢献	.0.20	昨年度事業COCEFの継続で、小学校および中学校の授業開発に協力する。	大浜中と八島小の授業づくりを共同した。
管理運営	0.15	教育研究評議員として大学および学部の業務を遂行する。	予定通り遂行した。
進路指導	0.05	教育実践学一年の指導教員の一人として学生指導に当たる。	全員、予定通り履修を進めている。
	0.00		・・・
計	#####	備　考	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	上地　完治	所　属	教育実践学	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	今年は「学校教育リフレクション」（学部・専門科目）と「教育原理特論」（大学院・必修科目）の講義内容を一部見直し、教える内容やその順序などを工夫する。	0.35	通常の授業に加えて、卒業論文4篇・修士論文2篇の指導を精力的に行った。「教育原理特論」の講義内容の見直しはうまくいったが、「学校教育リフレクション」は来年度も継続して改善していきたい。
研究	0.35	科学研究費助成を受けて、話し合い活動を重視した道徳授業の構築のための理論研究を重点的におこなう。	0.25	科学研究費助成や教育学部からの教育・研究企画事業など精力的に取り組んだが、全体的に時間が足りなかった。
社会貢献	0.15	文部科学省の研究指定を受けた北谷町立北玉小学校ならびに宜野座村立宜野座中学校の道徳授業研究の指導・助言をおこなう。またそれ以外にも、要望のあった学校へ道徳授業研究の指導・助言にあたる。	0.20	文部科学省の研究指定を受けた北谷町立北玉小学校ならびに宜野座村立宜野座中学校の道徳授業研究に共同研究者的な立場から協力できた。また、それ以外にも教員免許状更新講習や校内研修にも積極的にかかわった。
管理運営	0.15	全学では教員免許状更新講習実施室長ならびに教員養成運営委員として、学部内では入試委員会副委員長として職務を果たす。	0.15	教員免許状更新講習実施室長として職務を果たした。また入試委員会副委員長として、教育学部案内を作成した。
進路指導	0.05	学部4年生4名、修士2年生2名のゼミ生の進路について、指導をおこな	0.05	学部4年生4名、修士2年生2名のゼミ生の進路について、指導をおこなった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	浅井　玲子	所　属	教育学部教育実践学専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	教育実践学専修の1期生（4 年次）指導教員として、よりよい学生指導に努める。継続して担当している免許法における必修科目の課題の整理、内容の見直しを進めていき，学生の指導に当たる。	0.40	目標は達成できた。
研究	0.25	「沖縄の児童・生徒の生活目標達成要因認知に関する研究」の研究をすすめ，現在投稿中の日本教科教育学会投稿論文の受理，掲載をめざす。	0.25	目標は達成できた。
社会貢献	0.05	ミャンマーからの留学生を引き受け，公立小学校現場での見学の仲介，指導に当たっていく。また，相手小学校における国際理解教育への協力を依頼されており，参加予定である。	0.05	目標は達成できた。
管理運営	0.10	大学院では，家政教育専修主任，教務委員，学部では教育実践学専修教育委員，入試委員として職責を遂行する。	0.10	入試等，業務が未遂行の項目を除けば目標は達成できた。
進路指導	0.20	実践学専修学生の進路に関するアドバイス、教員採用に関する情報提供等を行う。実践学専修4年次学生は、グループでの教員採用学習会を自発的に行っているので、見守りながら支援をしていく。	0.20	目標は達成できた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	道田泰司	所　属	教育学部　学校教育教員養成課程 教育実践学専修	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・授業を行う（ゼミ，集中講義も含め，前期週9コマ，後期週9コマ予定） ・丁寧な授業準備と授業改善 ・受講生から授業改善のための積極的な意見の聴取，それに基づく振り返り		前後期とも，登録者のいない授業を除き，予定通りに授業を行った。 毎回の授業に際しては，前年度の反省を活かし，改善をしつつ行った。 ほとんどの授業で，学生に振り返りカードを書かせることで，学生からの意見聴取を行った。共通教育等科目におけるプロフェッサー・オブ・ザ・イヤー受賞
研究	0.30	・データ収集，分析，投稿 ・研究関連の情報収集 ・論文執筆 ・附属小学校における共同研究 ・書籍や雑誌などへの一般原稿執筆		教育心理学年報論文が印刷中／学会の情報誌論文が印刷中／紀要論文が１本掲載，１本投稿中／全国学会で発表２件／３月にシンポジウム（予定） 附属小との密な共同研究を，年間を通して遂行／附属中にて共同研究。 専門書の１項目を執筆／一般向け単著を出版。
社会貢献	0.15	・教員免許更新講習の講師 ・小中学校などにおける校内研講師		免許更新講習（必修領域）で講義。 琉大附属小学校と琉大附属中学校で校内研究会（勉強会）講師。 体験！琉球大学で附属中３年生対象に講義。 沖縄キリスト教学院大学FD研修会で講師（平成24年３月30日）
管理運営	0.20	・教育実践学専修4年次指導教員として ・教育実践学専修における入試業務遂行 ・教育実践学専修で，複数教員で持つ科目や行事の企画運営（小学校教育フィールドワークI，卒研発表会など）		教育実践学の学生指導を行った。特に一期生の最終年度ということで，大学教育についての独自アンケートを行い，質的分析を行っている。その他共同での授業科目運営にも全力を注いた。 例年通り，入試業務に従事した（学部，大学院とも）。全学の安全衛生委員会に委員として参加した。
進路指導	0.05	・指導教員をしている教育実践学専修４年次生への積極的な意見の聴取および進路相談 ・ゼミ所属学生を中心とした教育実習の視察，進路指導		実践学専修に教職意識および進路意識に関するアンケート調査を行い，学生の実態把握につとめた。進路状況について，アンケートその他のデータとの関連を統計的分析によって検討した。 教育実践学専修所属３年生の教育実習を20時間ほど見学をし，教育実践に関する情報収集ならびに指導助言を行ってきた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	吉田　安規良	所　属	教育学部理科教育講座 学校教育教員養成課程教育実践学教室	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	科学研究費補助金　若手研究（A)の採択テーマ「子どもにわかる小学校理科授業に必要な教師の実践力研究―物質・エネルギーを中心に―」と対応させ、現代的な教育課題に対応できる「最低限の資質」を備えられる教育活動の展開。（とりわけ、小学校理科授業実践に関して）	0.30	左記目標に到達するため精力的に教育実践した。
研究	0.25	科学研究費補助金　若手研究（A)の採択テーマ「子どもにわかる小学校理科授業に必要な教師の実践力研究―物質・エネルギーを中心に―」に関する研究を進め、学会発表等を行い、あわせて教育実践へ還元しうる成果をあげる。	0.25	日本理科教育学会に投稿した論文が受理されるなど、研究の成果を社会に還元できるよう努力した。
社会貢献	0.25	教員免許状更新講習の必修講座ならびに選択講座の担当講師として、初等中等教育関係者の教員免許状更新に対して貢献する。 沖縄県教育庁から依頼される予定の県内中学校理科教員向け研修会の講師として貢献する。	0.25	左記講習、研修に講師として対応した。
管理運営	0.10	教育実践学教室の主任として、学生の修学に関する事項や教室運営について最善をつくすよう努力する。	0.10	教室主任として応分の責務を果たした。
進路指導	0.10	研究指導している4年生への就学指導を行う。 教育実践学専修2年次の指導教員として村上呂里教授とともに適切な指導をするよう試みる。	0.10	研究指導している4年次が不登校気味であったが保護者等と連絡を取り合うなど就学にむけて努力した。 年次指導教員として応分の責務を果たしたが、その業務の大部分は村上呂里教授が主として行っていた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	小川由美	所　属	教育実践学	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	(1)講義を通して、音楽科授業に関する学生の実践力向上を目指す。その為に、レポート・模擬授業の企画実施・授業分析・その他授業に関するプレゼンテーション等の活動を段階的に行い、学生相互に意見交流する場を設ける。 (2)「教育臨床研究Ⅰ」の講義の一環として、附属小学校において音楽科授業を実践し、教員自身の授業実践力向上を目指す。また附属小で実践する授業自体を、受講生との協働で創り上げていき、実践分析をすることで、受講生の授業づくり技術の向上をも目指す。 (3)段階的な教育活動から見えてきた個々の学生の課題に応じた授業プログラムを構築し実践していく。	0.30	(1)「音楽科教育研究」（前期・後期）において、グループによる指導案作成・模擬授業の企画実施・授業分析・授業に関するプレゼンテーション等の活動を段階的に行った。1回ずつの課題を明確にし、グループ活動を中心に取り組ませた。その結果、課題に対する活発で主体的な議論が、グループ及び全体交流の場で見られた。特に後期においては、より教材開発に重点を置いたことで、教材への理解が深まり、小学校音楽科授業を構成する力、及び模擬授業における実践力（発問や教材提示の方法など）において向上が見られた。　(2)「教育臨床研究Ⅰ」の講義の一環として、附属小学校において沖縄のわらべうたを教材とした音楽科授業を教員自身が実践し、受講生が授業分析を行った。またこの授業自体も、受講生との協働で創り上げた。授業分析を通して、受講生の子どもの姿を見る視点に大きな変化が見られた。 (3)「初等音楽科教育内容研究Ⅰ」では、附属小中学校での教育実習に向けての教材研究を、「音楽科教育法C」では、附属小中学校での教育実習での反省を踏まえた新たな教材開発を行った。実習の前後で教材分析を中心とした音楽科授業づくりを実践的に行うことで、学生が個々に抱えている課題に対応した授業プログラムとなった。また、「音楽科教育法C」では、4年次での実習を踏まえた授業づくりも行い、より発展的に学習を進めていくことができた。
研究	0.35	(1)学会発表（日本学校音楽教育実践学会第17回全国大会） (2)論文寄稿（琉球大学教育学部紀要、日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究』） (3)日本教育大学協会における学会活動 (4)日本学校音楽教育実践学会全国大会における学会活動 (5)日本学校音楽教育実践学会における実践学事典編集にワーキングメンバーとして参加。	0.20	(1)日本学校音楽教育実践学会第17回全国大会（鳴門教育大学、2012年8月18日・19日）にて、自由研究10「子どもの音感覚を意識した郷土音楽の教材化―沖縄のわらべうたを素材として―」を口頭発表 (2-2)琉球大学教育学部紀要第82集（2013年2月発刊予定）に「子どもの音感覚に着目した「沖縄のわらべうた」の教材化に関する一考察」を投稿（校正済、現在発刊準備中） (2-2)日本学校音楽教育実践学会紀要『学校音楽教育研究』17号（2013年3月発刊予定）に「子どもの音感覚を意識した郷土音楽の教材化―沖縄のわらべうたを素材として―」を寄稿（校正済、現在発刊準備中） (2-3)琉球大学教育学部教育実践総合センター紀要（2013年3月発刊予定）に「体系的・継続的な教育実践経験を通した教員養成－専門科目「小学校教育フィールドワークⅠ・Ⅱ」の意義と課題－」を投稿 (3)平成24(2012)年度日本教育大学協会研究集会において、「体系的・継続的な教育実践経験を通した教員養成－専門科目「小学校教育フィールドワークⅠ・Ⅱ」の意義と課題－」を口頭発表 (4-1)日本学校音楽教育実践学会全国大会におけるラウンドテーブルⅢ「日本伝統音楽の授業で構成活動をどう展開していくか」にて司会を担当 (4-2)日本学校音楽教育実践学会紀要『学校音楽教育研究』17号（2013年3月発刊予定）において、ラウンドテーブルⅢ「日本伝統音楽の授業で構成活動をどう展開していくか」の報告を執筆（校正済、現在発刊準備中） (5)日本学校音楽教育実践学会において、音楽教育実践学事典編集にワーキングメンバーとして参加
社会貢献	0.15	(1)関西音楽教育実践学研究会における研究発表及び教員養成系学生の育成。（月１回開催。また夏には、複数の教育大学及び教育学部による合同合宿を行い、所属する教員養成系大学院生の指導にあたる。また合宿には現職教員も参加し研究成果を交流することを通して、音楽教育に関わる幅広い課題について議論する場を持つ。） (2)「教育臨床研究Ⅰ」の講義の一環として、新しい形の音楽授業の提案として附属小学校にて大学教員が授業を行う。その授業を受講生が観覧し、授業分析を行うことで、子どもの姿を通した音楽授業の在り方を提言していく。	0.20	(1)関西音楽教育実践学研究会（月1回、大阪教育大学及び大阪教育大学附属天王寺・平野小学校で開催、全国の現職教員及び近畿圏の教員養成系大学大学院生が参加、50名規模の研修会）にて宜野湾市内幼稚園での沖縄のわらべうたを用いた保育実践の研究報告を行った。 (1-2)音楽教育実践学研究会合宿（ホテル北野プラザ六甲荘：兵庫、教員養成関連大学の大学院生及び教員参加：鳴門教育大学、大阪教育大学、京都教育大学、岐阜大学、福井大学、琉球大学、畿央大学、四天王寺大学）において、研究発表及び研究交流を行った。また合宿には全国の現職教員（幼小中高）も参加し研究成果を交流した。これらの交流を通して、音楽教育に関わる幅広い課題について議論する場を持った。 (2)「教育臨床研究Ⅰ」の講義の一環として、新しい形の音楽授業の提案として附属小学校にて授業を行った。授業者は大学教員である。また、その授業を受講生が観察し、授業分析を行うことで、子どもの姿を通した音楽授業の在り方を提言した。その成果は、日本学校音楽教育実践学会（口頭発表）や琉球大学教育学部紀要にて外部発信している。 (3)NPO法人うてぃーらみやが行っている沖縄のわらべうた講師派遣事業の一環として、宜野湾市内幼稚園（四歳・五歳対象）での沖縄のわらべうたによる保育活動を実施。また、この保育活動において琉球大学教育学部教育実践学専修及び音楽教育専修3年次・4年次学生と協働で、保育指導案を作成し、保育実践を実施した。
管理運営	0.15	(1)学生生活委員における1年次合宿研修ワーキング・グループ及び「地域文化交流実習」科目担当	0.30	(1)学生生活委員の合宿WG長として、教育学部行事である平成25年度琉球大学教育学部新入生合宿運営に携わる学生リーダー39名が受講する科目「地域文化交流実習」（後期）を担当。合宿を運営していく学生リーダーの育成と指導を行っている。2013年1月18-19日には、4月の新入生合宿研修を見通しての予備合宿を実施した。今後も、4月の本研修に向けて、学生リーダー及び合宿WGの教員と共に、準備を進めていく予定である。
選択	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	神園　幸郎	所　属	教育学部学校教育教員養成課程 ・ 教育学研究科	職　名	教　授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	○学生を支援員として教育現場に派遣して教育実践を体験させ、実践力の養成に努める。 ○発達障害児の余暇活動の促進と学習支援を目的とする「土曜教室」を拡充し、学生の臨床経験の充実と実践能力の向上を図る。 ○大学院生をティーチングアシスタントとして学部学生の授業に参加させ、教育内容や教授法の開発に係る資質を育てる。 ○卒業研究の構想発表会を公開し、FDとして実施する。 ○科研費「広汎性発達障害における少年犯罪の分析」の研究で得られた成果に基づいて、卒業論文及び修士論文の指導を行う。	0.40	○学生支援員は学生の実践力向上はもとより派遣先小学校からも好評を得た。 ○「土曜教室」の拡充によって、参加学生の臨床経験の充実と教育実践力の向上が認められた。 ○ティーチングアシスタントを経験させることで大学院生の資質が向上した。 ○卒業研究の構想発表会、中間発表会、そしてと最終発表会を公開した。 ○科研費のテーマに関連する研究を卒業研究の一部として取り上げ、論文指導を行った。
研究	0.40	○日本特殊教育学会において研究発表を行う。 ○自閉症スペクトラム学会において研究発表を行う。 ○自閉症スペクトラム学会の評議員として職責を果たす。 ○科研費の研究実績報告書を作成する。 ○発達障害児の余暇支援に関する課題について研究を開始する。 ○「発達支援教育実践センター紀要」に論文を投稿する。	0.40	○日本特殊教育学会において研究発表を行った。 ○ヒューマンサービス学会において研究発表を行った。 ○自閉症スペクトラム学会の評議員として職責を果たした。 ○科研費の研究実績報告書を作成した。 ○発達障害児の余暇支援の課題について文献収集などの研究を開始した。
社会貢献	0.10	○浦添市デイサービス事業「たんぽぽ園」における発達相談を担当する。 ○南城市適正就学指導委員会において委員として就学判定を行う。 ○西原町適正就学指導委員会において委員として就学判定を行う。 ○西原町立小学校4校で発達障害児支援の巡回相談を行う。 ○沖縄県適性就学指導委員会の委員として就学判定を行う。	0.10	○浦添市デイサービス事業「たんぽぽ園」における発達相談を担当する。 ○南城市適正就学指導委員会において委員として就学判定を行う。 ○西原町適正就学指導委員会において委員として就学判定を行う。 ○西原町立小学校4校で発達障害児支援の巡回相談を行う。 ○沖縄県適性就学指導委員会の委員として就学判定を行う。
管理運営	0.05	○学生生活委員として職責を果たす。 ○「土曜教室」の実施に伴う施設管理、参加児童の安全管理に努める。 ○特別支援教育学生支援員を募集し県教育委員会へ学生を斡旋する。	0.05	○学生生活委員として職責を果たした。 ○「土曜教室」の実施に伴う施設管理、参加児童の安全管理に努めた。 ○特別支援教育学生支援員を募集し県教育委員会へ学生を斡旋した。
進路指導	0.05	○2年次指導教員として学生の進路相談と就職情報の提供等に努める。 ○卒業論文を担当する6名の学生の進路相談や就職情報の提供に努める ○修了論文の指導を担当する特別支援教育特別専攻科生3の進路相談および就職情報の提供等に努める。	0.05	○2年次指導教員として学生の進路相談と就職情報の提供等を行った。 ○卒業論文を担当する6名の学生の進路相談や就職情報の提供を行った。 ○修了論文の指導を担当する特別支援教育特別専攻科生3の進路相談および就職情報の提供を行った。
計	1.00		1.00	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	緒方　茂樹	所　属	教育学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	1）修士1年次1名に対する修論指導。 2）学部3-4年生および特別専攻科合計14名に対する卒論指導。必要に応じて学校現場あるいは教育行政機関などに引率をしながら経験を積ませ、実践的な内容を論文に盛り込めるよう指導する。	0.30	達成できた
研究	0.30	1）宮古圏域における特別支援教育ネットワーク構築に関する研究。 2）子どもの発達と音楽活動の関わりに関する評価ツールの作成に関わる研究。 3）藤森法を応用した脳波分析に関する研究。以上3つを柱として研究を進めていく。特に1）宮古圏域に関わる研究内容については、保育士の全国大会における発表を予定している。	0.30	十分に達成できた
社会貢献	0.10	1）沖縄県福祉保健部、宮古島市就学指導委員会等、沖縄県あるいは宮古圏域における教育行政事業への積極的参加。2）沖縄県教育委員会、沖縄県総合教育センター、あるいは学校単位の校内研修会等講師を引き受け、県内の特別支援教育の推進に貢献する。	0.10	達成できた
管理運営	0.25	1）総合実践センターの地域支援担当、入試委員としての職務遂行 2）4年次担任として履修指導をはじめとする学生指導	0.25	達成できた
進路指導	0.05	過卒生、現役学生併せて、教員採用試験に向けた情報提供の機会を設ける。	0.50	おおむね達成できた
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.45	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	田中　敦士	所　属	教育学部　特別支援教育講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	25.00	前期の講義では、特別支援教育の学校現場で必要となる実践的スキルも体得できるよう、現職教員が使用するマニュアルなども含めて教授する。卒業研究および修士論文合計約13名へのゼミ指導では、学生の学びたいテーマを優先させ、必要に応じて実践現場での活動や臨床経験を踏めるように学外専門家を紹介する。また、毎年実施している東京学芸大学との合同研究会を今年も企画し、学生・院生が自由に参加できるようにする。	25.00	前期の講義では、特別支援教育の学校現場で必要となる実践的スキルも体得できるよう、免許法認定講習で現職教員にも使用している実践的なマニュアルなども含めて教授した。卒業研究および修士論文合計13名へのゼミ指導では、学生の学びたいテーマを優先させ、実践現場等の見学や学外専門家を紹介した。また、毎年実施している東京学芸大学との合同研究会を昨年10月に実施し、学生・院生ら25名が参加した。
研究	25.00	知的障害者、発達障害者の就業支援や進路指導に関する研究のほか、科研費のテーマである特別支援教育を担う教員のメンタルヘルスに関する研究を中心として、国内外の学会での研究発表および学術雑誌への論文掲載を最低目標とする。また、外部資金（科学研究費補助金等）を獲得し、国内外への訪問調査等を通して最新の学術情報を入手する。さらに、他大学等とも障害者支援に関する共同研究を実施する。	25.00	知的障害者、発達障害者の就業支援や進路指導に関する研究のほか、科研費のテーマである特別支援教育を担う教員のメンタルヘルスに関する研究を中心として、国内外の学会等で研究発表し、本学紀要やAsian Journal of Human Serviceなどの学術雑誌で論文掲載された。また、外部資金（科学研究費補助金等）を獲得し、国内外への訪問調査等を通して最新の学術情報を入手した。さらに、東京学芸大学など他大学等とも障害者支援に関する共同研究を実施した。
社会貢献	15.00	①沖縄県教育委員会等の各種委員、研修講師等をできる限り引き受ける。②県外から訪沖する障害のある修学旅行生への相談や支援を行う。③知的障害者らが大学で学べる機会をつくるため、生涯学習教育研究センターと連携して公開講座を開設する。④沖縄障害者職業センターや県内の障害者就業・生活支援センター、民間EAP関連企業等と連携して、労働者のメンタルヘルスやEAPに関する研究会を県内で開催する。	15.00	①県立美咲特別支援学校の学校評議員や教育職員免許法認定講習講師等を引き受けた。②県外から訪沖する障害のある修学旅行生（東京都立青峰学園）への支援を行った。③学校卒業後の知的障害者らが大学で学べる機会をつくるため、生涯学習教育研究センターと連携して公開講座を実施した。④県内のメンタルヘルス関係者と情報交換会を年4回開催した。
管理運営	15.00	①教育実習委員会、共同研究推進委員会などの学部内委員会活動を担当する。また特別支援学校教育実習部会長として学校と学生との連絡調整に当たる。②国際交流委員会、営利企業役員等兼業審査委員会などの全学委員会活動を担当する。③休日に集中講義を開講する非常勤講師への対応を行う。④障害のある学生への支援に関する教育研究活動を進める。	15.00	①教育実習委員会などの委員会活動を担当した。②国際交流委員会、営利企業役員等兼業審査委員会などの全学委員会活動を担当した。③休日に集中講義を開講する非常勤講師への対応を行った。④障害のある学生への支援に関する教育研究活動を進めた。⑤国際交流に貢献するため、ソウルを訪問し、韓神大学や江南大学との学生交流活動も進めた。
国際交流	20.00	①韓国の韓神大学、江南大学等との研究交流および学生交流を活発に行う。②Ⅱnd Asian Congress of Human Services を沖縄県内で開催し、実行委員として企画立案に中心的に携わる。③留学生アドバイザーとして留学生への学生支援や相談に対応する。	20.00	①国際交流に貢献するため、ソウルを訪問し、韓神大学や江南大学との学生交流活動や研究交流を行った。②Ⅱnd Asian Congress of Human Services を沖縄県内で開催し、実行委員として企画立案に中心的に携わったほか、機関誌としてAsian Journal of Rehabilitation Counselingの編集委員長として企画立案に中心的に携わった。③留学生アドバイザーとして留学生への学生支援や相談に対応した。
	0.00		0.00	
計	100.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	100.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	韓　昌完（ハン　チャンワン）	所　属	教育学部　特別支援教育講座	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	25.00	①　障害、障害者に対する総合的かつ国際的理解を学習させるため、視聴覚教材を含めて多様な教育的資料を活用しながら教授する。②　特に医療との連携を想定しながら医学的知識も習得させるため、医学の基礎的な部分も教授する。③　卒業研究などのゼミ指導では、学生の学びたいテーマを優先させ、必要に応じて国際的連携、実践現場との連携も取りながら指導していく。④　シラバスに基づき独自の学習資料を提供する。　⑤　発表授業を通して教授スキルを訓練させる。特に発表に対する同僚評価を取り入れ、評価スキルも訓練させる。	25.00	①授業中はパワーポイントやビデオ等を活用し、スウェーデンをはじめとする北欧や韓国をはじめとするアジアの障害者教育に関して授業を行った。②インターネット、医学事典、人体図、ビデオ等を活用し、身体の構造と機能についての授業を行った。病弱児の心理・生理・病理では、特別支援教育と関連のある医学用語についての説明を行った。③沖縄で開催された国際大会（アジアヒューマンサービス学会沖縄大会）に積極的に参加させ、国際的観点を持つように指導した。特別支援教育概説では、現場の先生を招き現場での取り組みについての講話をした。国際的連携、現場との連携をとり指導を行った。④シラバスに基づき教員が独自に作った講義資料を提供した（レジュメ及びPPTの使用）。⑤病弱児の心理・生理・病理では、授業時間の半分を学生の発表に当て、享受スキルの訓練を試みた。発表に対して同僚評価を行い、それに関する評価を教員が行うことにより、評価スキルの訓練も図った。
研究	35.00	①　国際ジャーナルに論文2本以上掲載。 ②　国内ジャーナル（紀要を含む）に論文3本以上掲載。 ③　外部資金（科学研究費補助金等）の獲得にChallengeする。	40.00	①国際ジャーナルに共著を含め論文を6本掲載。②国内ジャーナル（紀要を含む）に6本掲載3本投稿中。③科学研究費基盤研究Cに応募した。「学士力と大学生のQOLやメンタルヘルスの関連性に関する国際的実証研究」。 ※研究業績書添付
社会貢献	10.00	①　県内外からの各種委員、研修講師等をできる限り引き受ける。 ②　国外、県外から訪沖する関連団体、個人の研修相談や支援を行う。 ③　学内外の関連機関と連携して公開講座を開設する。 ④　特別支援教育、障害者福祉などヒューマンサービスに関する研究会を県内で開催する。	5.00	①アジアヒューマンサービス学会沖縄大会の実行委員としての役割を遂行した。研修講師は韓国・地域福祉センター・全国大会の特別講演の講師として講演した。②株式会社Lucky Brains代表取締役である澤村比呂志を招き、「メンタルヘルスとマインドコントロール」のテーマで公開講座を行った。③発達障害児教育専門機関である韓国のHANASHIN PLUS CAREの沖縄見学研修の相談及び支援を行った。④アジアヒューマンサービス学会の研究大会を沖縄で開催するように働きかけ、開催した。
管理運営	10.00	①　教育委員会、発達支援教育実践センター運営委員会などの学部内委員会活動を担当する。　②　休日に集中講義を開講する非常勤講師への対応を行う。	5.00	①教育委員会の委員、発達支援教育実践センターの運営委員を務めたほか、琉球大学教育学部合宿研修のワーキンググループに参加・活動した。また入試、実習に関する指導・活動を行った。②肢体不自由児教育集中講義など非常勤講師への対応を行った。
国際交流	20.00	①　Ⅱnd Asian Congress of Human Services を沖縄県内で開催し、事務局長、実行委員として企画立案に中心的に携わる。 ②　韓国の大学、現場との研究及び学生交流を企画し、実行する。 ③　留学生の受け入れに積極的に取り組む。	25.00	①Ⅱnd Asian Congress of Human Servicesを事務局長、実行委員長として企画立案し、沖縄県内で開催し成功を収めた。②韓国のHANSHIN大学との研究交流や学生交流を行い、琉球大学への留学宣伝を行った。韓国の発達障害児専門機関であるHANSHIN　PLUS CAREとの研究交流を行い、その結果、琉球大学紀要へ論文投稿をした。③留学生受け入れに積極的に取り組み、2014年度大学院入試に1名応募した。
	0.00		0.00	
計	100.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	100.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。